

第2期 令和4年度
下諏訪みらい塾

まちづくりのアクションプラン

2023年2月19日

- - 目 次 - -

1. はじめに

2. 「まち探検」グループ

第1章 活動経過

第2章 研究の報告

第1節「コンパクトシティを活かす下諏訪町」

第2節「街中に本屋さんがあったら」

第3節「今昔マップによるウォーカブルなまちづくり～デジタルアルバム
の活用によるわくわくするまち歩き～」

第4節「安全なまち歩きのできる下諏訪町」

第5節「移住促進」の方策～人口減少、空家増加問題解決」

第6節「企画書一町民がまちづくり、まちをよくしようというアイデア
～下諏訪町を学生が行き交うまちに～」

3. 下諏訪の子ども・若者の意識と願い

はじめに

1 インタビュー調査設計

- (1) 調査の名称 「下諏訪町の若いみなさんの声を受け止めたい調査」
- (2) 調査の目的
- (3) 調査の方法と内容

2 インタビュー調査の結果

- (1) 面接調査の結果
- (2) アンケート調査の結果（移住者2人、大学生1人）

3 インタビュー調査結果の分析

- (1) 家族について
- (2) 仕事（将来の就職）について
 - ①現在仕事をしている対象者
 - ②大学生、高校生（将来の就職について）
- (3) 就職活動に必要と考えられる取組みや支援（大学生、高校生）
- (4) 下諏訪（諏訪地方）への愛着度
- (5) あなたの故郷はどこか（移住者以外）
- (6) 店が少なくて不便か
- (7) 下諏訪（諏訪地方）にあったらいいなと思うもの
- (8) 駅や町の中心部のまわりへの工夫
- (9) 地域の行事・イベントに参加経験と意向
- (10) これからの下諏訪町の重点施策
 - ①安全、道路など、②交通、③その他

4 「二十歳を祝う会」アンケートの結果とその分析

- (1) 質問 「あなたは下諏訪町に住みたいですか」
- (2) 実施日時と場所
- (3) 実施方法
- (4) 結果
- (5) 考察

5 子ども・若者の意識調査による課題

4. 第2期下諏訪みらい塾の成果と課題

1. はじめに

2021（令和3）年の暮れに「みんなで考えるまちづくり」という公民館講座が始まりました。その名も「下諏訪みらい塾」と名づけられました。「コロナ禍で人との距離も遠くなり生活範囲も狭くなっていませんか。そんな日常から、新しい人との出会いを作り、町のことを語り合い、何をしたらいいかみんなで考えてみませんか」と声かけをいたしましたところ、まちの人たち20名の方が、その呼びかけに応えてくださいました。そして翌2022年3月に、全6回にわたって学んでまいりました。

この「みらい塾」という意味合いは、いわゆる学習塾の塾ではなく、「塾風教育」という「塾」のほんらい学び方で、塾生どうしの交流を重ね、「みんなで考えあう」という「参加型学習」です。塾生が積極的に「調べる」、「語る」、「まとめる」といった多彩なワークを取り入れ、そういうことから生まれる塾生自身の学んだ実感と実践力を身につけようというものです。

そういうことから、「まちづくり」について学ぶということは、「そうですか」で終わるものではなく、塾生どうしが日々の生活にその学びを生かし、行動していくかにかかわっていくことをめざすものです。そしてこのことは役場から頼まれたことではなく、私たちが学んだことから私たちがなりにスタートを切ることができればと思っています。

こうして、2022（令和4）年、第2期の「下諏訪みらい塾」を続けてまいりました。

下諏訪町のまちづくりのこのみらい塾では、塾生の関心に沿って、第一グループは、多彩に「まち探検」を繰り広げ、そこから観光、交通、居場所などを課題として位置づけています。

第2のグループは、まちに対する意識、とくに若者が、地域に対してどのような意識を持っているのか、そのことによって、地域定着を図っていく課題は何かを明らかにするため、高校生・地域から離れた大学生など若い世代の意識と実態を探ることにいたしました。この場合、ともすると、統計的に処理される若者像ではなく、個別のケースにあたるアプローチを取り入れました。

この二つのグループによる下諏訪のまちづくり研究成果の報告です。

（上田 幸夫）

2.「まち探検」グループ

第1章 活動経過

まち歩き班では2回のまち歩き、空き家見学を実施し、それぞれの感想を言い合う中で、自分の中のテーマを見つけ出し、それに沿ってそれぞれが学びを深めてきました。それは、新たな町の魅力の発見と未来への提言として、それぞれのテーマに沿った研究発表という形で報告いたします。それぞれの視点でまとめたため重複するところもありますが、ご理解ください。

6月26日 第2期「みらい塾」第2回会議（6/26）にて町歩き班が7名のメンバーで結成された。

9月3日 プレまち歩き 参加者4名
あいにくの雨でしたが、赤砂崎公園から駅までを歩き反省会を持った。

9月7日 空き家見学 参加者4名
菅野町の空き家を見学し、物件の問題点、活用の仕方を話し合った。

10月19日 まち歩き 参加者 6名
三角八丁を歩き、気が付いたことを話し合った。

11月30日 図書館にて会議
報告書のまとめ方について話し合い、一人一研究の形でまとめることを決めた。

第2章 研究の報告

第1節「コンパクトシティを活かす下諏訪町」（石垣／豊島）

日本国内では「少子化・高齢化・人口減」が深刻な問題になっているが、日本の将来推計人口（平成24年1月推計）は、70年後には現在の半分の6000万人を下回ると予測している。人口が半分になれば、自治体は現在の生活圏を維持することが困難になることから、問題解消の為に施策として移住促進を積極的に展開している。

我々は、およそ一万年以前の旧石器時代からの歴史があり、諏訪信仰の総本山たる諏訪大社を有する下諏訪がこれからも活気ある町であるよう、4つの取り組みを提案したいと思う。

第1節 コンパクトシティを活かしたまちづくり

～ ふれ合いある町・活気ある町づくりを目指して ～

現状

現在、国内市町村の多くは「少子化・高齢化・人口減」が深刻な問題になっており、その解決は急務となっています。日本の将来推計人口は、30年後の2053年に1億人を下回り、2065年には3割減、2100年には6000万人を下回ると予想されています。自治体の多くは、総人口が緩やかに減少していく現況において、移住希望者に移住してもらうよう、転入者に永住してもらうよう、様々な施策を採っています。

下諏訪はおおよそ一万年以前の旧石器時代から人が集落を形成し、古代の交通の要衝でありました。諏訪の黒曜石はその希少さから全国に広がり、諏訪大社を総本山とする諏訪信仰も同じく全国に広まり、諏訪神社の数は25,000社にもなるそうです。江戸時代には中山道唯一の温泉地、甲州街道との合流地として大いに栄え、寺院仏閣を始めとする文化遺産も多く、魅力ある町としてアピールポイントは数多あるといえます。

わたしたち下諏訪みらい塾街班は、昨年9月に三角八丁域内を散策して見ました。そして改めて町内には魅力あるスポットが数多くあると思いました。しかしこれらの謂れや魅力が十分に伝わるものとはなっていないとも思いました。また町内の小路を通る車の速度が体感的に高く、安全を阻害しているようにも思われました。

提言

20世紀後半以降、私たちを取り巻く社会や環境はその変化のスピードを飛躍的に高めています。わたしたちはそのスピードについていけず、相互の断絶、社会の歪みを感じるようになってきているように思われます。

下諏訪町に引っ越してきて、温泉で語らっているおばちゃんや、子供達、自然とコミュニケーションが生まれている日常の風景に、この町の人の温かさや可能性を感じます。諏訪大社あり温泉あり、文学も美術館もあり、湖や山もある。歴史や自然がとても豊かな町。そんな街がとてもコンパクトにまとまっている。こんな下諏訪の特性を活かした「ゆったりしたまちづくり」はどうでしょうか。

車がなくても歩いたり自転車でまわれる、そういう町だからこそ、昨今抱えるエネルギーや環境の課題、一人ひとりの心身の健康、医療費負担減という観点からも、今の時代のロールモデルになれるのではないかと思います。むしろ、いろいろありすぎて当たり前のことほど気づきづらい…今一度、足元の豊かさを見直し、掘り起こし、活かしていくことが、町民の幸せにつながると思います。

町の観光遺産を通じて、下諏訪を訪れる観光客と町民がふれ合う機会を増やしましょう。人間関係の煩わしさのない都会とは異なり、地方は未だに家族や地域の間人間関係で支え合うウェットな相互扶助が残っています。その意味では、人とのふれ合いに価値を見いだす人に来てもらってこそ、町の真の活性化が図られるのではないのでしょうか。

これまで都会へ出て行った若年層も戻ってきそうな機運が高まってきています。彼等が帰ってきたいと思えるような「精神的な繋がり」を持ってもらえるよう、彼等の根っこの部分をしっかりと繋ぎ止めておくよう、下諏訪の魅力を彼等に伝え続けていきたいと思います。

散策したとき感じたポイントを (昔の)三角八丁の地図で確認します

春宮駐車場のテーブルと
サイクルスタンド

ナマコ壁の蔵
とベンチ

宿場問屋場跡の石玉



下諏訪駅前モニュメントと温泉

四つ角湯けむり広場の
温泉、東屋、ベンチ

四つ角駐車場の手湯、
サイクルスタンド

秋宮境内の御神湯

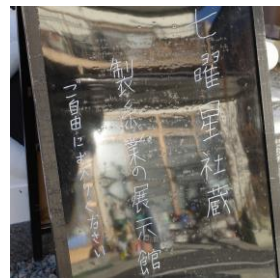
散策中の休憩ポイント

春宮駐車場のテーブルと サイクルスタンド



春宮駐車場にはトイレと立派なテーブルとサイクルスタンドがありました。道路脇であり、ちょっと落ち着かないかなという気もしますが、このような一休みできる所があるのは有り難いと思います。

ナマコ壁の蔵



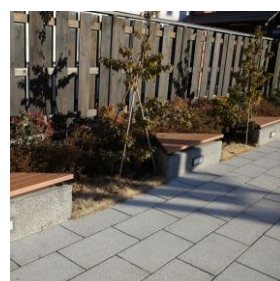
「七曜星社蔵」と書かれた蔵がありました。両端にベンチが置かれており、一休みに丁度良いですが、もう一説明あれば更に良いのにと感じました。

四つ角駐車場の手湯と サイクルスタンド



四つ角駐車場にあるサイクルスタンドと三角八丁の地図。トイレと東屋もあり、散策には便利な設備です。

四つ角湯けむり広場の 東屋とベンチ



四つ角湯けむりひろばにも、屋根付の休憩場とベンチがあります。近くのパン屋で買ったパンをここで食べたが美味しかったです。

散策中にあった温泉のお知らせ

宿場問屋場跡の石玉



大きな石玉が湧き出る温泉の蓋の役目を果たしていますが、手で回してやると、「ゴロゴロ」と回転します。スゲー！この重い石を回転させる温泉の湧き出すパワー！絶妙な重量バランスです。

秋宮境内の御神湯



触れない程熱い温泉がこんこんと湧いています。

四つ角駐車の手湯



旦過源泉から引湯している手湯。折角アピールするのであれば、効能も記して「散策の締めには温泉で疲れを取りましょう」などとアピールするのはどうでしょうか。



四つ角湯けむり広場の温泉



ここにも引湯しているそうですが、四つ角駐車の手湯と同様に、効能も記して「散策の締めには温泉で疲れを取りましょう」ともっともっとアピールしてもよいのではないのでしょうか。

下諏訪駅前モニュメントと温泉



モニュメントと温泉です。温泉止まってました。出てないと何だか寂しいね。

コンパクトシティを活かす④ 下諏訪町



-
- 参加者には、地域通貨の発行。
- 町
- 旅行者
- 循環する仕組みをつくる。

ではどうしたら街はもっと良くなるだろうか



～車でピューッと移動してたんじゃ、街の良さは伝わらない～

～行って見て、それで終わりじゃ、なんだか少しもったいない～



～ 車を降りて歩こう、観光客も町民も
とりあえず歩いてみよう ～
(四国に根付くお遍路文化をイメージ)

人と人がふれ合う町を目指して、観光客町民も出来るだけ歩こう！希望する観光客には「貴方にいろいろ聞き隊」という腕輪を、同じく町民にも「貴方にいろいろ伝え隊」という腕輪を配付して、ふれ合う環境作りを行う。
観光客と町民が自然にふれあえる町、そこに価値を見いだせる人が多い町はきっと住みよい町になるに違いない。



～ 子供たちに下諏訪の魅力を
伝えよう、伝えてもらおう ～

「貴方にいろいろ伝え隊」は是非とも小学生や中学生達にやってもらいたい。彼等が観光客とふれあうことを通じてこの地の魅力を再認識することこそが、何よりの経験となるだろう。

生まれ育った土地と「精神的な繋がり」を持つこと、人生の根っこをしっかりと繋ぎ止めておくことをもっと私たちは意識すべきなのではないだろうか。



～ 個々の具体的な提案 ～



1 レンタサイクル

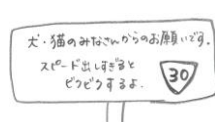
観光客向けに、レンタサイクルの場所をもっと目に入る所に設置する。

ex. 駅前観光案内所、秋宮前観光案内所、おんばしら館よいさ、四つ角駐車場等。

→ 健康増進、体を動かす爽快感、車がなくても十分回れる、満足できる街だとアピール

2 車のスピードについて

町の学生やアーティストに協力してもらい、スピード減に繋がる看板をDIYして立てる。自転車や歩く人の安全性向上。手作り看板を発見するのも散策の楽しみに。



(実は手書きの看板をDIYというのが大事)

3 湧き出る温泉について

源泉や湯質、効能の表示看板をつくり立てる。

→ 散策後の入湯喚起、美肌・腰痛に効果有り等の効能を謳う。

4 駅前について

駅は町の顔。ちょっとした物を購入できるお店が何もないのは寂しい。電車通学の学生の希望もある。お店導入が難しければ、せめてパンやお菓子、お惣菜など飲食の自動販売機を設置する。

～ 最後に ～

下諏訪町の魅力は、車がなくても暮らせることに加え、散策してこそ発見、味わえるものが沢山あることだと感じています。ゆっくり下諏訪町の時を過ごし、町民やお店の人とふれ合い、五感が働くことで、観光客も町民も、生きることの豊かさや今ここの足元にある幸せに気づきやすくなる。

そして、この町で育つ子供達には故郷への愛着や誇りが芽生えるのではないのでしょうか。

コンパクトシティ下諏訪だからこそできるふれあいの町づくり。それは意識改革そのものであり、幸福度の高い笑顔の花が咲く町に繋がるのではないのでしょうか。



第2節「街中に本屋さんがあったら」（山田）

街中から本屋さんが消えて久しい。けれども、コンパクトシティ下諏訪にこそ、街中の本屋さんが必要ではないか。集いと出会いの場として、学びと成長の場として、また遊びと語らいの場として、街中に新たな本屋さん（図書室）の姿を考え、実現させたい。

第2節 街中に本屋さんがあったら

0 街中の本屋さんへの思い

生まれてから大学に入るまでの時間、町内を転々としながらも、ずっと下諏訪町に住み続けてきた。教職に就き、諏訪郡外郡内の他市町村から現在の住所に転居し十数年現在に至っている。しかし、その間の街の変貌ぶりは驚くほかはない。子どもの頃草野球をして遊んだ山王台に大きなホテルが建ち、そして数十年、そのホテルは今はない。旧田中線沿いに大きなショッピングセンターが作られ、田中線はジャスコ通りと名前を変え、湖周道路の一環として車の流れは絶えない。

目を街中に転じてみると、同様に古くからの町並みが残っているところもあれば、軒並みシャッターを下ろして、閑散としている通りも少なくない。その中で、私個人の子どもの頃の思い出の中で、最も記憶に残っているのは、町内に十軒近くはあった街の本屋さんである。

当時も子どもが一人で買い物に行くことができる店は限られていた。学校近くの文房具屋さん、近所の八百屋さん、魚屋さん等々。その中で特に用事が無くてもしばらく過ごせたのは、本屋さんだけだったように思う。当時盛んに発行されていた子ども向きの名作全集や月刊の雑誌を買いに毎月のように、僅かな小遣いを握りしめ、本屋さんに通ったものである。

街中から本屋さんが淘汰されて久しい。当町でも、ジャスコ内にあった本屋さんが撤退してからは、わずかに雑誌をコンビニで買う以外、新刊の雑誌や単行本を買うことができなくなってしまった。単体としての書店事業は難しい時代になってしまった。

1 街中に本屋さんがあったら

全国の街中から本屋さんが消えつつあるが、それは生活の中で本屋さんが全く必要とされなくなったかということ、そうではない。現在は多くの書籍が、アマゾンなどのネットを通して購入されているが、店頭で直接本を手に取り、購入したいと考える読者も少なからず存在する。また、現在も営業している書店の多くが、書籍の販売だけでなく、文房具を扱ったり、カフェを併設したりと、様々な戦略を採りながら営業を続けている実情がある。

(1) 集いと出会いの場としての本屋さん

本屋さんの業態の特色の一つは、立ち読みと称してかなりな時間特に買うものが無くてもその場所で過ごせることが挙げられる。待ち合い、出会いの場所として本屋さんほど格好な場所は無いのではないかな。

今回提案する本屋さんは、書籍販売の本屋さんではなく、古本屋として多少の本を扱う以外に、ブックカフェ的に大量の古本をセットし、本を手に取りながら読書談義をしたり、少人数の会合の場としたり、町歩きの途中で休憩をしたりする場としての活用が図られることを考えている。

セルフでコーヒーなどの飲み物を飲んだり、持ち寄ったもので簡単な食事を楽しんだりする場としても使用が可能な街中の本屋さんです。

(2) 学びと成長の場としての本屋さん

本屋さんの設備として、壁一面の古本とインターネットが利用できる機器を備えることができたかと考えている。古本の中身は限定されないが、諏訪に関する歴史や自然、教育、文学の領域は是非とも必要と思う。

そのような領域の文献を備え、ネットの活用が図られるとき、街中の本屋さんは、みらい塾の活動の拠点として、また様々な同好会の発信源として活用が図られるのではないかと。

(3) 遊びと語らいの場としての本屋さん

気楽に立ち寄れる本屋さんとして、テーブルとイスを何脚か準備し、少人数の集まりに利用したり、仲間で囲碁や将棋などのゲームを楽しんだり、お風呂の帰りに本を手にとったりというような活動が考えられます。

2 実現への課題

(1) 建物、場の確保、維持管理をどうしていったらよいか

古本の資料提供は用意されている。約 4000 冊の書籍、雑誌類。また無償提供を呼びかけることで資料は確保できると考えている。ホームラックにして約 20 本分の書棚とそれを並べる壁が必要。以上の条件を考えた上で、最重要課題は、適当な店舗物件の確保になる。町の図書館が清水町に置かれているので、町の本屋さんは、駅を挟んで対角線上の旧市街にあれば多くの点で好都合ではないかと考える。現在適当な物件を物色中であるが、下諏訪町でも空き家空き店舗が話題になることが多い今、さらに広く探していきたい。その上で、適当なりノベーションを施すことで場づくりが出来ていくのではないだろうか。なお、町の本屋さんには初期投資としてその他にも様々な什器や設備が必要であるが、それについてはクラウドファンディングその他の資金調達の方法が考えられる。

(2) 維持管理に必要な人的体勢

少なくとも数人の管理人が必要。一日に 1～2 人体勢として、1 週間を回していくこ

とができる人数を確保したい。なお、管理人は基本的にはボランティアとするが、詳細については、全体の体勢が整ったところで詰めていきたい。

(3) 維持管理に関わる費用について

維持管理に関わる費用の主なものは、店舗の借用料と水道光熱費、什器の維持管理費等々と考えられる。これらの費用を恒常的に捻出していかななくてはいけない。できるだけ持ち出しすることなく、古本屋さんとしての営業をしていく中で捻出していきたい。

(4) 既存の商店等への配慮、他

このことについては、最も重要な事項として心がけていきたい。町の本屋さんが、「街」の本屋さんであるためには、「街」との共存、共栄が必要不可欠であると考えている。開設の曜日、営業の形態等々、様々に近隣の商店等にも影響が及ぶと考えている。駐車場の問題や訪問客への対応等々、様々な状況・事態に対応できるように考えていきたい。

(5) 呼びかけ・PRについて

最後に、このことが「街の本屋さん」実現に向けての最大の課題になるのではないかと考えている。というのは、高齢化率も少子化傾向も非常に進んでいる下諏訪町では、何か活動をしようとする際に直面する課題の一つは、パワーが足りないということが挙げられるように感じている。これまでやってきた行事やイベントを継続開催すること限っても、役員を充当するのが精一杯のような状況も見られる。

下諏訪町では、近年三角八丁や夜の街歩きなど、町が関係する団体主催のイベントが多く企画され、それぞれに活況を呈している。企画や提案の仕方では、眠っているエネルギーを掘り起こして、再活性化することが可能なのではないかと。街の本屋さんも、提案の仕方、呼びかけ・PRの方法を考えることで、パワーを結集できるのではないかと考える。

3 課題の解決に向けて

(1) 街中の店舗物件の活用

街の本屋さんの拠点となる空き家・空き店舗については、現在も物色中。位置的には御田町近辺を中心に候補となる建物を見つけ、交渉していきたい。

(2) 資料の確保や維持管理について協働の取り組みを可能にする組織作り

組織の立ち上げから、拠点となる場所や資料の維持管理については、当面は任意団体として活動していくことを考えている。街中の本屋さん活動に賛成して下さった方々により活動をスタートさせ、継続的に円滑に運営できる組織作りを考えていきたい。

街中の本屋さん活動では、組織を作るところから活動が始まると考えている。様々な事態に対応できる柔軟で協働の力が働く組織作りが大切。その上で、メンバーの一人一人が「街中の本屋さん」のあり方を考え、アイデアを出し合って創り上げていく、そんな活動ができれば素晴らしいと思う。

(3) 維持管理に関わる費用の捻出について

空き店舗の賃貸料、資料の維持・拡充に変わる費用や水道光熱費など、街中の古本屋さんに関わる費用については、本棚の半分くらいを「棚貸し古本屋」とし、一棚のオーナーとなってもらい、その賃料を費用に充てることにしたい。オーナーは、毎月一定額を街中の古本屋さんに支払い、その棚は自由に利用できるものとする。維持管理費の総額については全く未知数であるが、一棚オーナーが多数になればなるほど営業的には採算が取れる計算になる。空き店舗内の書棚の整備や什器の設置費用などについては、任意団体メンバーのカンパも考えられるが、クラウドファンディングや下諏訪町の財政的支援制度の活用も視野に考えていきたい。

(4) 各地の実践例に学ぶ

近年、いわゆる街中の本屋さんが激減しているのとは対照的に、小商いの本屋さんやまちライブラリーというような地域活動、個人での図書館活動などの事例が多く報告されるようになった。また、ブックカフェという形で、喫茶店＋図書室の機能といったお店も少なからず存在する。街中の本屋さんを考えるについては、このような先行する事例を参考にして、ノウハウを蓄積し、できるだけ長続きする本屋さんを目指したい。

別紙に挙げたのは、つい先日書店で目にした『美しい本屋さんの間取り』という本に掲載された事例である。街中の本屋さんで出会ったセレンディピティの一つかと思っている。

街中読書活動の展開に向けて

街中の本屋さんでは、図書館とはまた違った雰囲気、古典や新書、雑誌や新刊書を手に取り、ときに諏訪の歴史や文学について、時間を忘れて語り合ったり、若き日の読書を通じて旧交を温めたり、老いを労り合ったり、新たな活動の場として活用していくことが考えられる。

さらに新しい活動の一つとして考えられるのは、子どもたちが本を直接手に取り、読みたい本を自分で選ぶという機会を与えたいということである。AI全盛の現在ではあるが、子ども時代に本当に読みたいもの、知りたいことに会うことが一生

第2節 街中に本屋さんがあったら 一箱古本棚と本のある風景

みつばち古書部

新刊 古本 リ・Z

80の一箱店主が集う本箱の巣

約5.7坪
約3,000冊

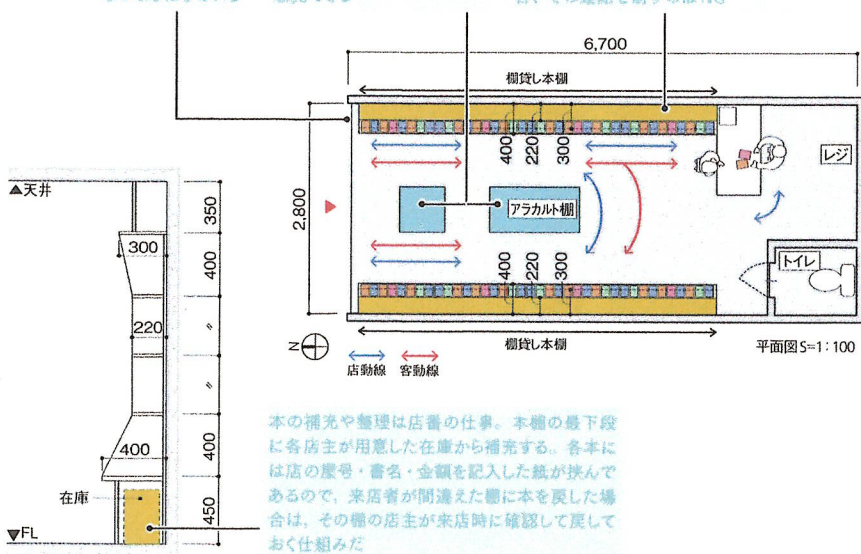
商店街の一角にあるみつばち古書部は、全104個の本箱をそろえる棚貸し本屋です。現在80組ほど入居しており、1人1〜3個ほど箱を間借りしています。近所の新刊書店が撤退してしま

りしています。近所の新刊書店が撤退してしまったこともあり、近隣の人が立ち寄る地元の本屋として、地域に溶け込んでいます。

入口にサッシはなく、シャッターのみ。開店時は、ビニルカーテンを用いて冷気や暖気が流出しないようにしている

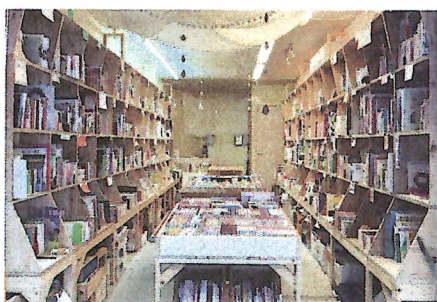
間借り店主のうち、希望者が一日店主となって店番を行う。店番は、店内中央の陳列棚を自由に使ってよい。ここを使って本以外の雑貨や衣類なども販売できる

借りる棚の位置によって、売上は大きく左右されてしまう。その不公平感をなくすため、「ハンターチャンス制度」と称し、店番をした人が自分の棚を好きな棚とトレードできる制度を採用している。ただし、複数個の棚を1店主が間借りしている場合、その連結を崩すのはNG

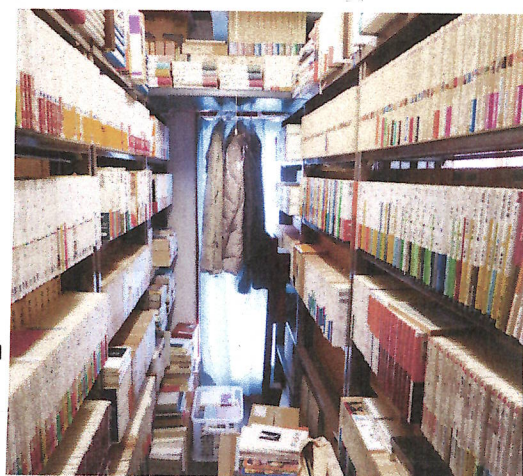
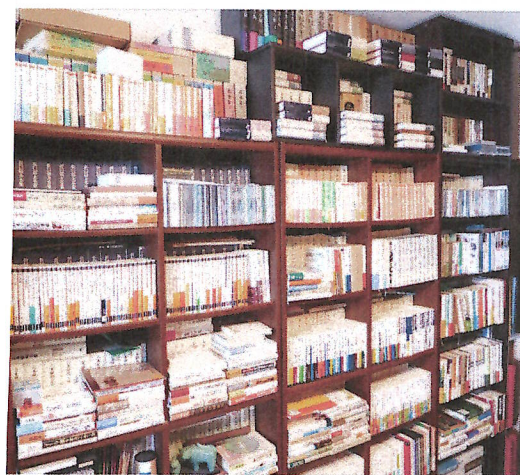


各棚には書店名を記載した紙が張られている

入口から店内を見る。左右の本棚を、棚ごとに貸している。天井と床の奥行きを、棚板より10〜20cm程度広くすることで、本箱の集合体の形状を強調した。屋号にもなっているみつばちの巣のような印象だ



「みつばち古書部」所在地：大阪府大阪市、写真：みつばち古書部



参考図書

- ・『美しい本屋さんの間取り』（株式会社エクスナレッジ）
- ・『ブックフェスタ 本の磁力で地域を変える』（まちライブラリー）
- ・『まちライブラリーのたまたまばこ』（郵研社）

第3節「今昔マップによるウォークアブルなまちづくり

～デジタルアルバムの活用によるわくわくするまち歩き～」 曾根原

何度もまちあるきをしてみて、初めて知る「まちの魅力」の多さに驚くとともに、昔の面影が姿を消していくことに悔恨の情をもって回顧する機会となった。そこで、「みんなでつくる下諏訪町デジタルアルバム」を活用し、観光客だけでなく、いろいろな世代の町民がまちあるきの楽しさを味わいながら、町の文化や歴史に興味を持ち継承していく方法はないかと考えた。アナログとデジタルの交差を大事にしながら3点提案したい。

第3節

下諏訪の魅力を どのように広め、継承していくか

～デジタルアルバムの活用による
わくわくするまちあるき～

まちあるきで感じたこと①

1997. 1. 29下諏訪町教育委員会発行「わが町しもすわ」に掲載されている史跡ですでになくなっているもの、面影さえない場所がある。

近代的な防災公園として多くの町民に利用されている赤砂崎公園。ここは昭和初期に飛行場であった面影はない。

浦野染織資料館、西浦薬師堂等すがたを消していく史跡や文化財がたくさんある。

赤砂崎の延命地藏尊や一本柳神社の大陸天等謂われを継承したい石仏や石碑がある。

西友駐車場にあった繭倉が平成18年に惜しまれつつ姿を消したが、下諏訪倉庫によって写真入りの看板が立てられている。



昭和、平成の時代に姿を消した文化遺産がたくさんある。世代を超えて語り継いでいく方法はないだろうか。

まちあるきで感じたこと②



NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の人気にあやかって盛り上がっている木曽町日義の「義仲の館」を訪れたときに、「義仲と下諏訪」の資料が充実していた。それを元に町内の義仲ゆかりの地を探しながら歩いてみると、初めてみる史跡もあり、わくわくした。残念ながら山吹城までたどり着かなかった。

まちあるきで感じたこと③

2015. 10. 31付 市民新聞
 ～ふるさとのお宝再発見～
 「下諏訪の信玄にまつわる言い伝え」
 (宮坂徹町長著)を
 思い出し、信玄に
 まつわる史跡を
 あらためて歩いて
 みた。



「承知川の石橋」「矢除石」は説明が看板に書かれているが、「茶くみばあさん」の話は、初めて知り興味深かった。

興味深い言い伝えや伝説の聖地がたくさんある。南小の6年生が総合の時間に承知川の石橋について扱ったことはうれしく思う。



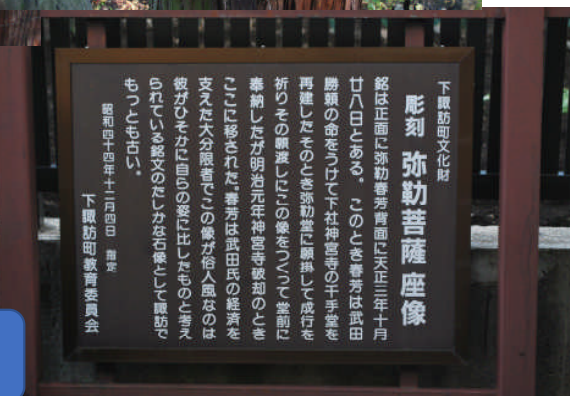
承知川の石橋



矢除石



弥勒菩薩座像



まちあるきで感じたこと④

水月園下を歩いていると、「木
落し坂はどこですか」と県外
の方から声をかけられた。



よいさ館もあるけれど、木落しの迫力
をARで体感できたらおもしろい。

諏訪湖畔を歩いていると、「今
年は御神渡はできそうですか」
と県外の方から声をかけられた。



最近では御神渡のできるシーズンの方が少
なくなっている。御神渡を期待して県
外から訪れている観光客もおおい。
YouTubeには動画がアップされているが、
ARで体験できたらおもしろい。

諏訪湖畔を歩いていると
「カモに似ているあの鳥
はなんという鳥ですか」
と声をかけられた。



諏訪湖畔には、野鳥にカメ
ラを向けている人が多い。
諏訪湖の野鳥や公園の樹木
について興味を持っている
人も少なくない。

ウォーカブルなまちづくりが進んでいる わくわくするまちあるきを実現するために

観光協会のHPのまちあるき基本コース、モデルコース、また博物館発刊のリーフレット「史跡巡りMAP」等は、観光客向けに大変分かりやすく工夫されている。また、「まちあるきアプリ」等のデジタル化も取り入れて地図上で自分の場所がわかるようになっている。

「三角八丁」「星ヶ塔遺跡ツアー」「神仏プロジェクト」等町の遺跡や史跡に興味を持つ取り組みが充実してきている。

多くの観光客は、秋宮、春宮周辺や諏訪湖の散策が中心となっている。リピーターはどれくらいいるのだろう。

「上田城VR」「上社神宮寺AR」「まちあるきマップのアプリ」「AR諏訪花火」等々DXが進んでいる。

さらに

興味のあるテーマでウォークラリーを楽しみながらまちあるきをすれば、まちの魅力を再発見できるのではないかな。



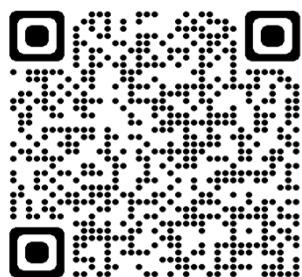
「下諏訪町誌～民俗編～」や「すわのでんせつ」に掲載されている伝説や昔話の聖地を巡ることで子どもたちも地域の歴史や文化に興味をもつのではないかな。

「みんなでつくる 下諏訪町デジタルアルバム」で地域資料のアーカイブ化を充実させて、画像だけでなく動画や文書にもアクセスできるようにすれば、ウォークラリーにも活用できるのではないかな。

提案 1

QRコード付きの看板を立て、デジタルアルバムにアクセスできるようにしたらどうか

QRコードから下諏訪デジタルアルバムにアクセスするとほかの写真を見ることができます。



赤砂崎公園

赤砂飛行場跡



昭和3年1月、下諏訪町や製糸関係者等の協力で諏訪飛行協会が結成されました。同3月に格納庫ができました。滑走路は約300メートルで舗装はされていませんでした。4月6日に藤森飛行士が赤砂飛行場に着陸しました。複葉機で遊覧飛行やビラ撒きをおこないました。

デジタルアルバムには
自然に対する投稿も
たくさんある

写真以外にもキャプション
で解説を読めるので図鑑
のように活用できそう

QRコードから下諏訪デジタル
アルバムにアクセスするとほか
の写真を見ることができます。



しかし、新しく看板を立てる
には莫大な費用がかかる

赤砂崎公園

諏訪湖で見られる野鳥



「ハクチョウ」カモ科

全長120cm 翼開長177cm

湖沼 川など毎年きまった越冬地へ飛来する。水面をねぐらとしマコモの根などを食べる。春には繁殖地のシベリア極北部へ渡る。諏訪湖に昭和49年11月11日、2羽が飛来以降「冬の使者」「シベリアからの使者」と呼ばれ諏訪湖の風物詩として大勢の方に親しまれている。

提案2 看板がなくてもQRコード入りの地図を片手に歴史を感じながらまちあるき

写真で見る下諏訪町の今昔マップ

1 下諏訪駅の 今昔	2 駅前通りの 今昔	3 赤報隊幹 部処刑地 魁塚（相良塚） （相良塚）
4 盛んだった 製糸業	5 今は見られ なくなった繭倉	6 大門通りの 今昔
7 下諏訪町 役場の今昔	8 昭和初期は 飛行場だった 赤砂崎公園	9 諏訪湖の漁業 の今昔
10 諏訪湖の 御神渡り	11 諏訪地方で 見られる野鳥	12 諏訪湖で 盛んな ボート競技
13 スケートの 今昔	14 下諏訪宿の 今昔	15 御柱祭の 今昔
16 諏訪大社下社 春宮の今昔	17 諏訪大社下社 秋宮の今昔	18 諏訪大社下社 秋宮神宮寺跡
19 諏訪湖、砥川、 承知川等、 豪雨による災害	町内の 温泉施設	



小学校の地域
教材にも活用
できそう

例えば
小学校3 学年社会科

(4) 市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

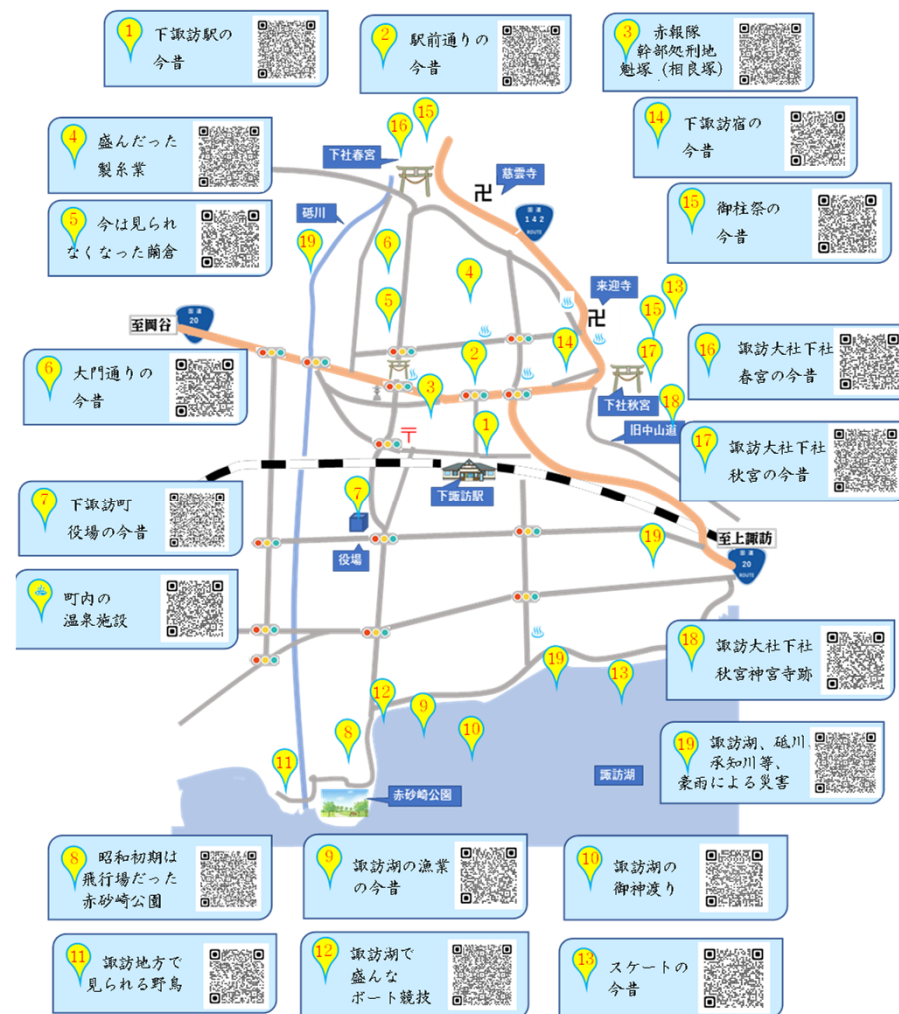
(ア) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、
移り変わってきたことを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、
年表などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること

写真で見る下諏訪町の今昔マップ



スマートフォン、タブレットをQRコードにかざすと下諏訪デジタルアルバムにアクセスできます

提案 3

ディープなテーマ
で再発見
ウーケラリーで
ウォーカブルなま
ちづくり

現段階では、右のテーマで投稿されている資料は5点しかない。
資料のアーカイブ化を進めていく必要がある。

信玄・義仲ゆかりの地を歩こう



幕末から明治維新の動乱を感じて歩こう



[illegible]

戦争の時代を感じて歩こう

デジタルアルバムを活用して まちじゅうをわくわくウォークラリー

- ディープなテーマでわくわくしながらまちあるき
- クリアできたら、〇〇をプレゼント（入浴券、クオカード・・・）
- 観光客には、リピーターを期待できる
- 町民は、まちの魅力を再発見できる
- 町民が関わることでデジタルアルバムが地域資料としてますます充実
- 世代を超えたコミュニケーションの場となる
- 歴史だけでなく、自然や文化、温泉など、テーマの発展性が期待できる
- 「まちあるきアプリ」とコラボすれば、さらにデジタル化できるか？
- イベントでなくてもサステナブルな取り組みになりそう

▲「歩きスマホ」になるのが心配

いずれは・・・

**AR、VR、メタバースで体験できる
下諏訪の魅力・・・**

御柱祭（木落し）

和田嶺合戦

星ヶ塔遺跡

天狗党（相楽総三）

木曾義仲と金刺氏

御神渡し

下社神宮寺

忘れ去られていく歴史に悔恨の情をもって回顧するのは歳をとったからなのかもしれない。今回このような機会をいただき、生まれ育った下諏訪に知らないことがたくさんあり、おどろくとともに継承していくことの大切さを感じました。

おわり

諏訪湖でみられる野鳥



「コハクチ ヨウ」カモ科

全長 120cm 翼開長 177cm

湖沼 川など毎年きまった越冬地へ飛来する。水面をねぐらとしマコモの根などを食べる。春には繁殖地のシベリア極北部へ渡る。諏訪湖に昭和 49 年 11 月 11 日、2羽が飛来以降 冬の使者」「シベリアからの使者」と呼ばれ諏訪湖の風物詩として大勢の方に親しまれている。

QR コードから下諏訪デジタルアルバムにアクセスするとほかの写真を見ることができます。



写真で見る下諏訪町の今昔マップ

1 下諏訪駅の
今昔



2 駅前通りの
今昔



3 赤報隊
幹部処刑地
魁塚 (相良塚)



4 盛んだった
製糸業



5 今は見られ
なくなった繭倉



14 下諏訪宿の
今昔



15 御柱祭の
今昔



6 大門通りの
今昔



7 下諏訪町
役場の今昔



町内の
温泉施設



16 諏訪大社下社
春宮の今昔



17 諏訪大社下社
秋宮の今昔



18 諏訪大社下社
秋宮神宮寺跡



19 諏訪湖、砥川、
承知川等、
豪雨による災害



8 昭和初期は
飛行場だった
赤砂崎公園



9 諏訪湖の漁業
の今昔



10 諏訪湖の
御神渡り



11 諏訪地方で
見られる野鳥



12 諏訪湖で
盛んな
ボート競技



13 スケートの
今昔



スマートフォン、タブレットを QR コードにかざすと下諏訪デジタルアルバムにアクセスできます

信玄・義仲ゆかりの地を歩こう

信玄ゆかりの史跡

信玄の矢除石

1 矢を跳ね返す
念力がある？

QR

慈雲寺

2 屋根に武田
菱のある臨済
宗の古寺

QR

弥勒菩薩座像

3 下社千手堂
の普請を見
守っていた茶
くみばあさんの化身？

QR

承知川の石橋

4 信玄の財宝
の隠し場所の
地図？



神の湯

5 信玄の
隠し湯と
いわれている

QR

義仲ゆかりの史跡

霞ヶ城(手塚城)跡

1 唐糸の父、
万寿姫の祖父
手塚別当金刺光盛
の居城跡といわれる

QR

梶原塚

2 金刺盛澄
(義仲の義父)
の命の恩人梶原
景時の供養塔

QR

五輪供養塔

3 御伽草子に書か
れている唐糸と一
人娘万寿姫の母子
愛に基づいて建てられた

QR

桜城跡

4 金刺盛澄(義仲
の義父)の居館に
附属する砦

QR

一念坂

5 金刺盛澄が
座禅を組んで
修行をしたとい
われる

QR

義仲の矢倉

6 幼い頃の義仲が
遊び回ったとい
われる場所につく
られた

QR

旧御射山

7 鎌倉時代に
各地の武士が
集まって神事を
した後、武技を競った場所



鎌倉街道

8 鎌倉時代武士たち
が鎌倉と下諏訪を
行き来した道

QR

「99 分まちあるきマップ
アプリ」とコラボすればチェ
ックポイントを訪れた記録
が残るか

幕末から明治維新の動乱を感じて歩こう

ろうにんづか
浪人塚

1 1864年尊皇攘夷を目指
す水戸浪士藩千余名と幕
府の命を受けた高島藩、
松本藩と戦った和田嶺合戦で
命を落とした浪士を慰霊する碑



至和田峠

しゅくばかいどうしりょうかん
宿場街道資料館

5 建物は明治初年に
建てられたものである
が、江戸時代の商家
の特徴を残している歴
史資料館。
下諏訪宿、和宮ご下向、和田嶺
合戦、偽官軍事件などの資料が
展示してある。

QR

すいげつえん
水月園

2 1864年の和田嶺合戦で命を落と
した松本藩士4名の慰霊碑がある

QR

いしがきとうざん
石城東山の碑

3 幕末の勤皇の志士として赤報隊と
ともに国事に奔走した石城東山の領
得碑。東山は諏訪市四賀の生まれ。
勤皇運動により投獄され34歳で獄死した。
碑は高島城から大正15年に移転された。

QR

しもすわしゅくほんじん
下諏訪宿本陣

4 186年孝明天皇の妹皇女和宮
徳川14代将軍家茂との祝言を
あげるために京都から江戸に向か
う途中宿泊された下諏訪宿。
行列は、3~4万人といわれ50Kmに及ん
だという。

QR

さきかけ ざから
魁(相楽)塚

6 1868年相楽総三以下8名の
赤報隊幹部が、偽官軍の汚名
をきせられここで斬首さらし首
の刑にあった。総三野孫木村亀太郎が汚
名を晴らすために生涯をかけ、昭和3年
晴れて志士として認められた。親交があ
った高島藩士石城東山も祀ってある。



しもしゃじんぐうじ
下社神宮寺

7 江戸時代には下社秋宮
境内に16200坪の神宮寺
があった。境内に仏殿千手
堂、三重塔、仁王門、弥勒堂、
方丈ほかたくさん院坊あがった。
明治維新神仏判然令が出され取り壊
された。仏像の一部は、照光寺等に
移され祀られている。



すわこはくぶつかん あかひこぎねんかん
諏訪湖博物館・赤彦記念館

8 諏訪湖に関する漁具、ス
ケート、氷り切りなど、
また、歌人島木赤彦に関する
資料を展示している。神宮寺の資料等
も保管している。

QR

赤砂飛行場跡



昭和3年1月、下諏訪町や製糸関係者等の協力で諏訪飛行協会が結成されました。同3月に格納庫ができた。滑走路は約300メートルで舗装はされていませんでした。4月6日に藤森飛行士が赤砂飛行場に着陸しました。複葉機で遊覧飛行やビラ撒きなどをおこないました。

QRコードから下諏訪デジタルアルバムにアクセスするとほかの写真を見ることができます。



下諏訪に伝わる**伝説**の聖地を歩こう



第4節「安全なまち歩きのできる下諏訪町」井上

グループで行ったまち歩きを基本に、交通事故の統計分析を行い、まずは現状認識を共有し、安全なまち歩きのためのアイデアを提案したい。

第4節 安全なまち歩きのできる下諏訪町

(担当 井上喜久美)

1. 問題意識

- ① 高齢化社会の進行する下諏訪町において、車を手放さなくてはならない高齢者が安心して暮らせる町であって欲しいという願い。
- ② 最近の観光として、歩く観光、自転車を生かした観光が多くなっている中で、安心してまち歩きを楽しめる道路整備が必要と考える。
- ③ 自動車に頼らないサスティナブルな生活のために自転車での移動を安全に行うことの必要性を感じている。

2. 下諏訪町での現状

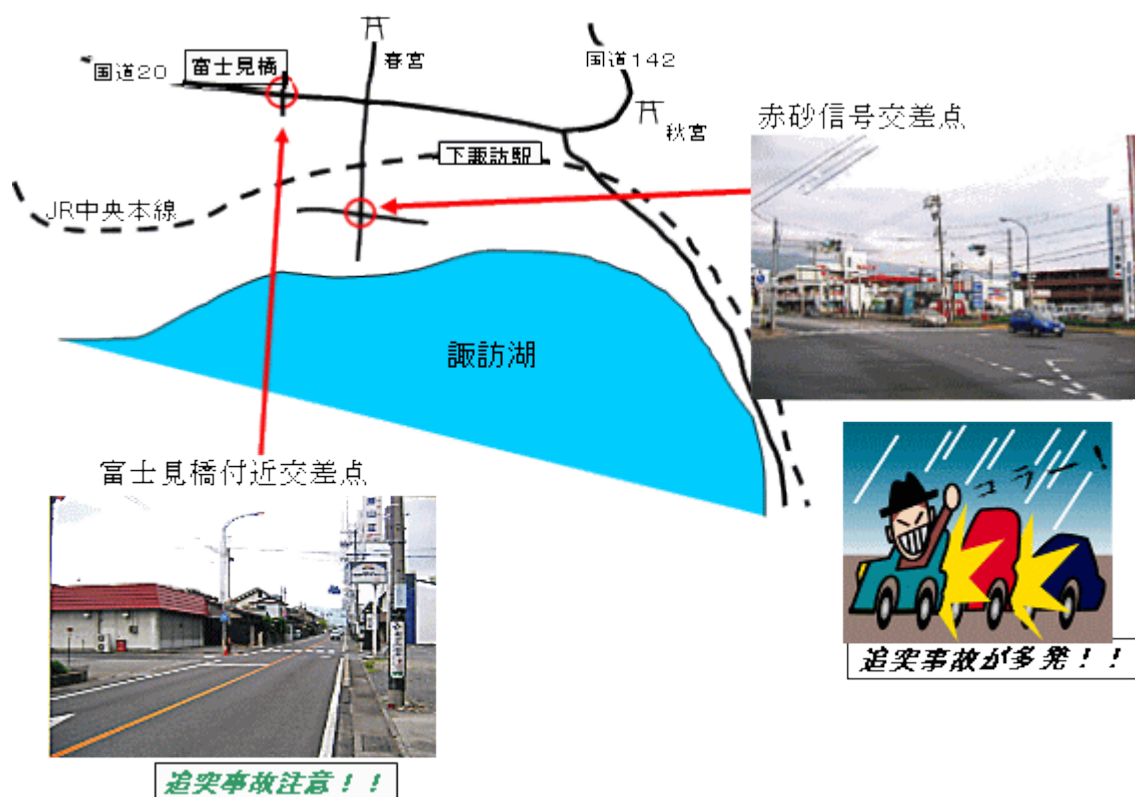
① 長野県警の統計から

下諏訪町の交通事故

	件数	死亡者	負傷者
令和2年	52		71
令和3年	44	0	52

長野県警ホームページより

交通事故の多発地域



紹介した事故多発地点の他にも国道20号では、**前方不注意**が原因の追突事故が発生してる。

② ゾーン30

地域の交通安全対策として、下諏訪町では2か所「ゾーン30」の指定区域が設けられている。

○ゾーン30とは？

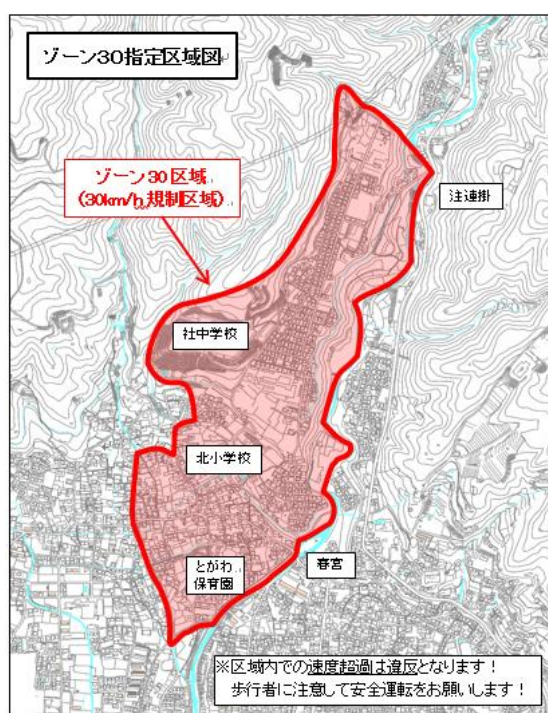
生活道路における歩行者の安全な通行を確保することを目的として、区域（ゾーン）を定めて最高速度30km/hの速度制限を実施するもの。

○なぜ30km/h？

自動車の走行速度が30km/hを超えると、歩行者の致死率が急激に上昇する。そのため、生活道路を走行する自動車の速度を時速30km/hに抑制する。

○期待される効果

- ・ゾーン内における速度の抑制。
- ・国道、県道からけ道としての通行を抑制・排除。
- ・通学児童、高齢者、自転車など生活利用者の安全確保。



令和2年交通統計より抜粋（第11次下諏訪交通安全計画）

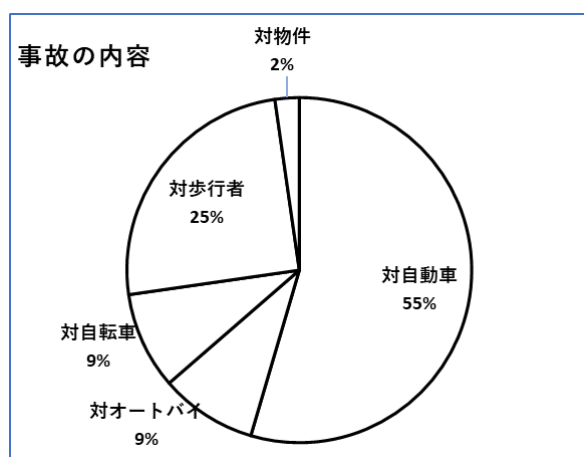
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
件数	100	93	80	71	89	68	73	63	65	52
死者	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0
負傷者	120	116	97	86	107	83	87	97	83	71

- ・この交通事故とは、死亡・負傷を伴った事故（人身事故）をいい、物損事故などを含めるともっと多くの事故が起きていると考えられる。

- ・ 事故の統計では別紙の警察庁のホームページからダウンロードし加工した 2021 年の 44 件の事故の詳細の図を参照願いたい。

[オープンデータ | 警察庁 Web サイト \(npa.go.jp\)](https://npa.go.jp)

- ① 事故 44 件中歩行者との事故は 11 件で 25 パーセントを占めている。
- ② 自動車とオートバイの事故は 4 件で 9 %であった。
- ③ 自動車と自転車の事故は 4 件で、うち 1 件は原付自転車であった。 9 %



オートバイ・自転車事故の状況

歩車道区分	年齢(当事者A)	年齢(当事者B)	当事者種別(当事者A)	当事者種別(当事者B)
区分なし	45～55歳	65～74歳	貨物車－軽自動車	軽車両－自転車
区分あり－路側帯	65～74歳	45～54歳	乗用車－普通車	二輪車－原付自転車
区分あり－路側帯	65～75歳	0～25歳	乗用車－軽自動車	軽車両－自転車
区分あり－路側帯	25～34歳	75歳以上	貨物車－普通車	軽車両－自転車
区分あり－路側帯	45～54歳	45～54歳	二輪車－自動二輪－軽二輪－126～250cc	二輪車－自動二輪－軽二輪－126～250cc
区分あり－路側帯	55～64歳	45～55歳	貨物車－普通車	二輪車－自動二輪－小型二輪－251～400cc
区分あり－路側帯	0～24歳	45～54歳	貨物車－普通車	二輪車－自動二輪－小型二輪－751cc以下
区分なし	55～64歳	25～35歳	乗用車－普通車	二輪車－自動二輪－軽二輪－126～250cc

人身事故の状況

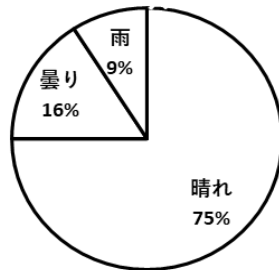
歩車道区分	事故類型	年齢(当事者A)	年齢(当事者B)	当事者種別(当事者A)	当事者種別(当事者B)
区分なし	人対車両	35～44歳	75歳以上	乗用車－普通車	歩行者
区分あり－縁石・ブロック等	人対車両	45～54歳	25～34歳	乗用車－軽自動車	歩行者
区分あり－路側帯	人対車両	75歳以上	75歳以上	貨物車－軽自動車	歩行者
区分あり－縁石・ブロック等	人対車両	35～44歳	65～74歳	乗用車－普通車	歩行者
区分なし	人対車両	35～44歳	55～64歳	乗用車－普通車	歩行者
区分なし	人対車両	65～74歳	0～24歳	乗用車－普通車	歩行者
区分あり－縁石・ブロック等	人対車両	75歳以上	75歳以上	二輪車－原付自転車	歩行者
区分あり－路側帯	人対車両	65～74歳	75歳以上	乗用車－普通車	歩行者
区分あり－路側帯	人対車両	65～74歳	35～44歳	乗用車－軽自動車	歩行者
区分あり－路側帯	人対車両	65～74歳	75歳以上	乗用車－軽自動車	歩行者
区分なし	人対車両	55～64歳	76歳以上	乗用車－軽自動車	歩行者

人身事故にあった歩行者 11 名のうち 6 名は 74 歳以上であり半数以上にあたる。高齢者の交通事故にあう確率は非常に高い。

自転車事故は高齢者が運転する車が事故を起こした場合が 4 件中 2 件、自転車を運転していたのが高齢者なのは 4 件中 2 件となっている。また、事故が起きた道路は歩車道区分なしが 1 件、区分があっても路側帯であった。

車両同士の事故の状況

事故当日の天気



車両同士の事故は高齢者の割合は低い。
事故の発生時間は通勤通学時間帯が多く、特に朝は急ぐ人が多いせいか事故が多いように思う。

下諏訪町の交通事故 2018（信州くらしのマップより）

事故類型	年齢(当事者A)	年齢(当事者B)	当事者種別(当事者A)	当事者種別(当事者B)
車両相互	25～34歳	25～34歳	乗用車－普通車	乗用車－普通車
車両相互	25～35歳	35～44歳	乗用車－普通車	貨物車－軽自動車
車両相互	25～36歳	45～54歳	乗用車－普通車	乗用車－軽自動車
車両相互	35～44歳	25～34歳	乗用車－普通車	乗用車－普通車
車両相互	45～54歳	0～24歳	乗用車－普通車	乗用車－普通車
車両相互	0～24歳	75歳以上	乗用車－軽自動車	貨物車－軽自動車
車両相互	45～54歳	35～44歳	乗用車－普通車	乗用車－軽自動車
車両相互	0～24歳	65～75歳	乗用車－普通車	乗用車－軽自動車
車両相互	25～34歳	65～75歳	乗用車－普通車	乗用車－普通車
車両相互	65～75歳	55～64歳	貨物車－軽自動車	貨物車－軽自動車
車両相互	45～55歳	25～34歳	貨物車－大型車	乗用車－普通車
車両相互	25～34歳	25～34歳	乗用車－普通車	乗用車－普通車
車両相互	35～44歳	25～34歳	乗用車－普通車	乗用車－軽自動車
車両相互	35～44歳	45～56歳	貨物車－大型車	貨物車－軽自動車
車両相互	45～54歳	35～44歳	乗用車－普通車	乗用車－普通車
車両相互	65～74歳	35～44歳	乗用車－普通車	乗用車－軽自動車
車両相互	0～24歳	25～34歳	乗用車－普通車	乗用車－軽自動車
車両相互	35～45歳	25～36歳	乗用車－軽自動車	貨物車－軽自動車
車両相互	35～45歳	35～44歳	乗用車－普通車	乗用車－軽自動車
車両相互	0～24歳	55～64歳	乗用車－軽自動車	貨物車－軽自動車
車両相互	35～44歳	45～54歳	乗用車－軽自動車	乗用車－軽自動車
車両相互	0～24歳	45～55歳	乗用車－普通車	貨物車－軽自動車
車両相互	55～64歳	65～74歳	乗用車－普通車	乗用車－軽自動車
車両相互	45～54歳	35～44歳	乗用車－普通車	乗用車－軽自動車



この地図から読めること

- ・ 信号のある交差点での事故が多い
 - 特に、赤砂と西大路と春宮大門の交差点が多い
 - 藤ノ木の交差点での事故も多い
- ・ 危険と思われる地域
 - スワマタニティークリニックから国道に出る三叉路
 - 博物館脇の抜け道

下諏訪町の交通事故 2019（信州くらしのマップより）



この地図から読めること

- ・ 新田中線で事故が多発している
- ・ 信号のある交差点での事故が多い
 - 特に、赤砂と西大路と春宮大門の交差点が多い
 - 藤ノ木の交差点での事故も多い
- ・ 信号機のない交差点での事故
 - 国道から下諏訪中学校に上がる信号機のない交差点の事故が2件ある
 - 博物館脇の抜け道

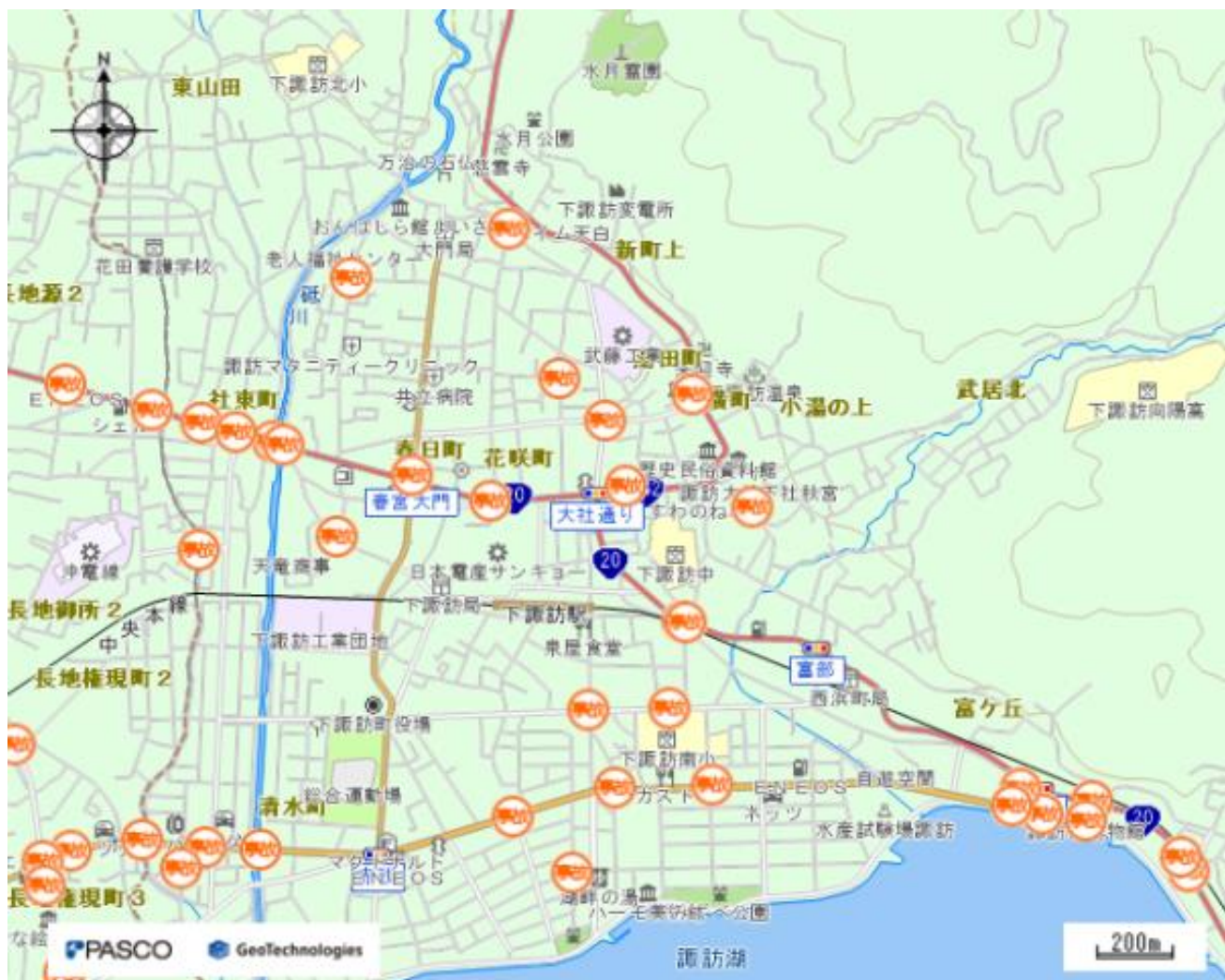
下諏訪町の交通事故 2020（信州くらしのマップより）



この地図から読めること

- ・ 事故が国道、田中線、新田中線に集中している
- ・ 砥川西、赤砂、湖浜、高浜、四つ角交差点での事故が多い
- ・ スワマタニティクリニックから国道に出る三叉路での事故も多い

下諏訪町の交通事故 2021（信州くらしのマップより）



この地図から読めること

- ・ 例年事故の多い役場、赤砂の交差点での事故が全くなっている。また、例年は事故の少ない生活圏内での事故が見受けられる
- ・ 高浜、博物館、藤ノ木あたりに事故が集中している。
- ・ 西大路口、富士見橋付近に事故が多いが、とがわ保育園との関連性が心配される

3. 下諏訪町の交通安全対策

第11次下諏訪交通安全計画（令和3年度～令和7年度）より要約

・ 事故の現状

国道・県道の事故が大半で、原因はスピードの出しすぎ・安全確認不足が大半。特に交差点とその付近が多い、

・ 道路交通の安全についての対策

- ① 高齢者及び子どもの安全確保
- ② 歩行者及び自転車の安全確保
- ③ 町民の意識改革

4 節 講じようとする施策

(1) 道路交通環境の整備

① 生活道路における交通安全対策の推進

バイパス等による生活圏への通過車両の抑制

歩道の整備→安心して移動できる歩行空間ネットワークの整備

車両速度を抑制する道路構造（パンプ・クランク）

*ハンプ（hump）とは、道路の一部を隆起させ、通過する車両に上下の振動を及ぼすことで運転者に減速を促す構造物の総称である。機能や形状によって、スピードバンプやスピードクッションなどとも称される。

ハンプは自転車・オートバイには危険な構造で、救急車などの緊急車両への影響もあるので導入は問題点が多い。

ゾーン 30 ・道路標識 などの整備（公安委員会）

歩道のリメイク

⑤自転車利用環境の総合的整備

- ・ 自転車走行空間の整備
- ・ 駐輪場対策

(2) 交通安全意識の普及徹底

- ・ 警察及び支援センター、交通安全協会等による免許を持たない若者や社会人を対象にした自転車の安全を含めた交通安全教育
- ・ 高齢者に対する交通安全教育

*参考 道路交通法改正による自転車運転



自転車が道路右側の路側帯を通行することの禁止（平成25年12月1日施行）

改正前は、自転車の走行できる路側帯では双方向の通行が可能でしたが、改正後は、自動車との正面衝突や自転車同士の事故防止のため、道路左側に設けられた路側帯のみが通行可能となります。

路側帯を逆走した場合は通行区分違反となり、3か月以下の懲役または5万円以下の罰金に処せられます。

なお、自転車が通行できる歩道については、従来どおり双方向通行することができます。

4. まち歩きから見えてきたこと

①道について

- ・ 街路樹の根が歩道を持ち上げていたり、樹木の繁茂が通行の妨げになったり、景観を損ねたりしている個所が何か所も見られた。
- ・ 下馬橋の脇を車で通り抜けるとき幅狭く橋の左右で片側通行に改善することはできないか
- ・ 春宮から医王渡橋への道路が狭く、歩行者も怖いし、観光に訪れた人の車も危ない。また、カーブミラーが見えにくい

春宮周辺の道路の通行規制を検討する。

春宮へ来た観光客の散策ルートを整備し、狭い車道を避けるコースを設定する。

事故の発生しやすい場所を町民に広報する。

②車の通行について

- ・ 生活圏での車のスピードが速い
オルゴール通り・春宮大門通り・御田町など
- ・ 駅前是一時停止無視が多いので危険。

駅前周辺にゾーン30を設定する。



③ 自転車について

- ・ マナーが守られていない（夜間の無灯火・逆走）
→ 道路交通法の改正で自転車の走行が車と同方向になったことが十分徹底されていない
- ・ 自転車の走行レーンを実際に走ってみると、幅が狭く縁石付近に土砂や小石があり危ない。
- ・ 自転車を使った観光を考えるならば自転車置き場の設置が必要（春宮の駐車場にはある）
- ・ 歩行者と自転車の共用歩道があることの認識がされていないのでmapがあると良い。

自転車の正しい乗り方、諏訪周辺のサイクリング情報などを学べる講座を公民館が主催する

④ 歩行者について

- ・ バス停にベンチがあると高齢者には助かる。（役場付近、西友には設置されている）
- ・ 観光客にもまち歩きの時 ベンチがあると良い（東鷹野町道祖神・駅の広場のベンチなど）
- ・ 歩道に起伏があつたり、交差点での段差などで車いすでの通行が危険な個所が何か所もある。

街中ベンチの設置を推進する。

歩道の危険個所についての情報を町と住民が共有する

⑤ まち歩きを楽しくするために

観光案内の標識の整備や交通安全の立て看板の設置（第1節参照）をすすめる。

史跡の説明をスマホで読める仕組みづくり（第3節参照）

街燈の整備（できれば太陽光を利用した照明）

秋宮への観光客は多いが、駐車場と近いためまち歩きに発展していかない。歩いて秋宮へ向かう観光ルートが作れるといいと思う。

第5節「移住促進」の方策～人口減少、空家増加問題解決の一施策」豊島

日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」によると、今後日本の人口は、右肩下がりで減少し、70年後には現在の半分になると予測している。人口が半分になれば、不動産の需要も相応に減少することは疑いないが、この傾向は減少率が大きい地方ほど深刻である。少子高齢化による自然増が極めて困難な現状において各地方自治体は社会増を目指し、「移住・定住の促進」を積極的に展開している。

空家に移住者が入れば、空家の減少と移住者の増加という二つの問題が解消される。そこで自治体は、空家再生等に補助金を、移住に支援金を交付することで、これらの推進を図ろうとしている。この制度がどれほどの成果を上げているのかは知る由もないが、不動産の取引を業とする者として空家再生の困難さを指摘し、解決策を提示したいと思う。

第5節 「移住促進」の具体的な方策

～ 人口減少、空家増加問題解決の一施策 ～

1 国内の住宅の利用状況と空家の現状についての確認

(1) 賃貸住宅空家の発生要因

- 老朽化などにより競争力を失った。
- 売却もしくは建て替えの為に空家になっている。
- 資金難、高齢、後継ぎ不在等の理由により放置。

(2) その他空家の発生要因

- 高齢者が施設に入居して誰も住まない状態になっている。
- 相続で取得した家を放置している。
- 相続登記を怠ったため、所有者不明物件が増えている。

(3) 空家が生じることで生じる問題

- 倒壊や崩壊
- 放火による火災
- ゴミの不法投棄・衛生の悪化・悪臭の発生
- 治安の悪化
- 風景・景観の悪化

(4) 空家問題への国の対策

- 空家等対策特別措置法
- 相続登記の義務化
- 除却支援、再生支援

住宅の利用状況			
	平成30年	平成10年	増加数
住宅ストック件数	6,241	5,025	1,216
総世帯数	5,400	4,436	964
空家件数	841	589	252
空家率(%)	13.5%	11.7%	1.8%

単位：万件 平成30年住宅・土地統計調査

空家等の現状について

	平成25年	
賃貸用住宅	429	52.4%
売却用住宅	31	3.8%
二次的住宅	41	5.0%
その他空家	318	38.8%
合計	820	100.0%

単位：万件 国土交通省空家等の現状について

2 下諏訪町における空家の状況

- 有効回答数311件中、269件(86.5%)は回答者本人又は関係者が所有しているので、処分に困難な状況ではない。
- 有効回答数190件中、60件(31.6%)は空家期間が4～9年で、71件(37.4%)は10年以上空家になっているとのこと。空家の状態で厳冬期を何度も迎えている場合、凍結による漏水に注意する必要がある。

区	人口		世帯数		世帯当人数	空家数		空家率
	人	%	世帯	%		件	%	%
1	2,748	13.5%	1,180	13.2%	2.33	77	12.0%	6.1%
2	1,148	5.6%	535	6.0%	2.15	59	9.2%	9.9%
3	7,770	38.2%	3,452	38.7%	2.25	187	29.2%	5.1%
4	1,260	6.2%	567	6.4%	2.22	39	6.1%	6.4%
5	1,235	6.1%	594	6.7%	2.08	56	8.8%	8.6%
6	828	4.1%	381	4.3%	2.17	54	8.4%	12.4%
7	1,845	9.1%	715	8.0%	2.58	53	8.3%	6.9%
8	1,024	5.0%	387	4.3%	2.65	26	4.1%	6.3%
9	653	3.2%	299	3.4%	2.18	31	4.8%	9.4%
10	1,823	9.0%	803	9.0%	2.27	58	9.1%	6.7%
計	20,334	100.0%	8,913	100.0%	2.28	640	100.0%	6.7%

平成30年度下諏訪町空家実態調査

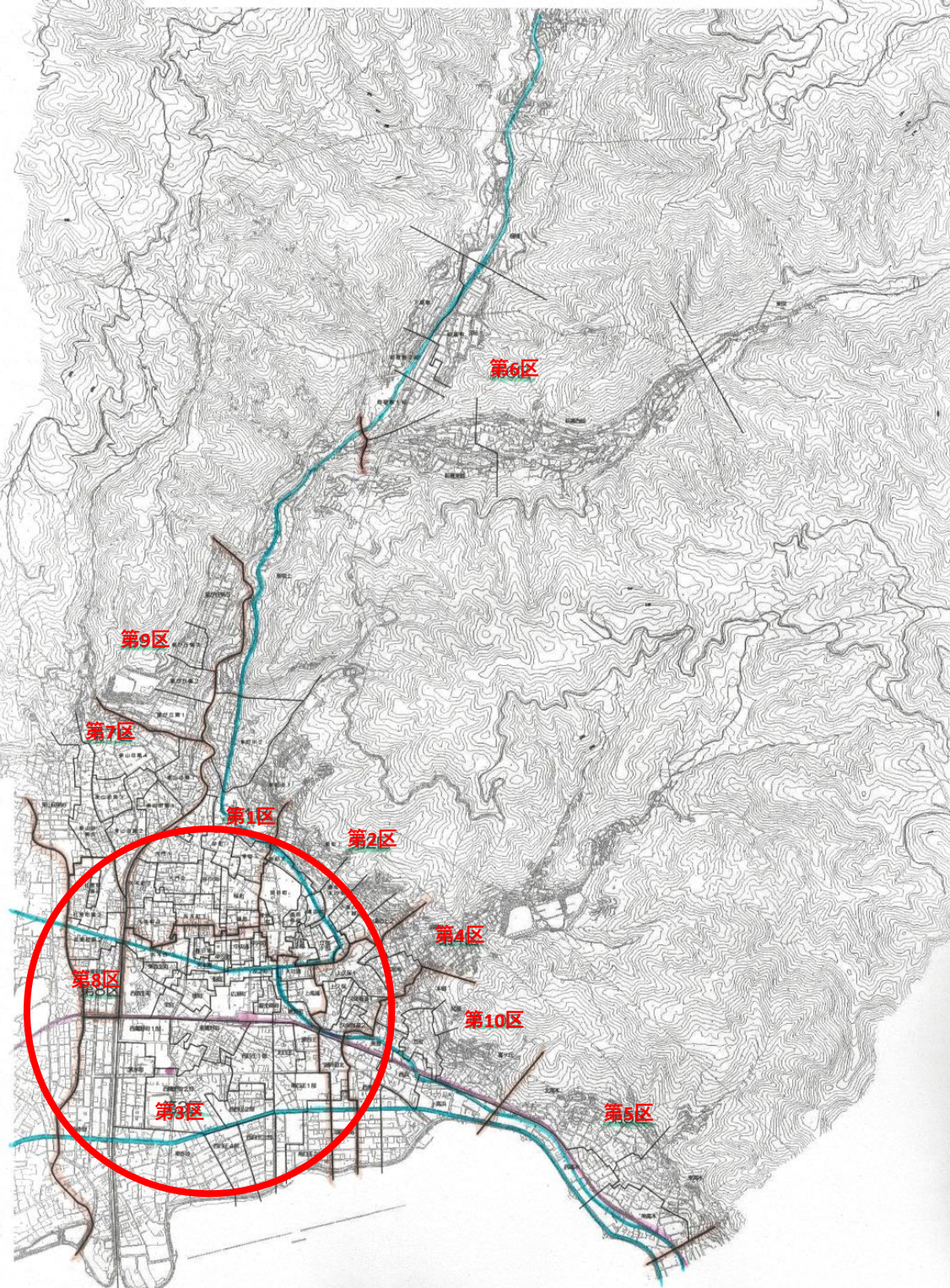
3 下諏訪町の現状

- 3区の人口が38.2%と最も多く、1区の13.5%とで過半数(51.7%)を占める。
- 空家数は、人口・世帯数共に最も多い3区が一番多い。
- 空家率で見ると3区が最も少なく、深刻なのは6区(萩倉・町屋敷)の12.4%と2区(立町・湯田町)の9.9%、9区(星ヶ丘)の9.4%だと思われる。
- 上記3区に共通するのは、街の中心部から離れた周辺部に位置し、利便性(公共機関・駅・店・病院・学校・交通路)に難がある。
- この数字は5年前の数値である。今年来年に再度同様の調査を行えば、更に深刻な数値になろうことは想像に難くない。個人的には9区は既に10%を越えているのではないかなと思う。
- 数値上、取り組むべき地域の順番は2・6・9区なのからだろうが、これが抗えない時代の趨勢によるものであるならば、数値だけの判断は安易かもしれない。
- 今後、空家対策を考えていくに当たっては、町の未来を百年の大計で捉えた「生き残りをかけた町づくり」を意識したものとなるだろうから、全ての地域に遍く対応していくのではないし、そうすべきではないと考える。
- 結論として、空家対策は、行政の働き掛けを必要とするものではあるが、それだけではなく、当該地域を主人公としたもの、地域の主体的な参画を前提とした施策を採るべきだと考える。
- また、単純な経済的効用だけでは計れない「歴史的・文化的物件」をどう扱うべきか、取り壊してしまったら二度と得られない、しかし指定文化財として保護できる程のものでもない、そういった物件をどのようにすべきかも考えていく必要がある。

4 下諏訪町行政区各区の位置関係や人口・面積について

- 下諏訪町の人口は18,655人(2022.12.01)、面積66.87km²、人口密度279人/km²です。
- 20年程前の古い資料になりますが、全国町村平均値、人口11,082人(2004)、面積90.00km²、人口密度173人/km²と比べると、人口が多く人口密度が高いことが判ります。
- 地目別の土地面積を見ると、宅地は2.88km²(4.3%)しか無く、過半数(52.7%)は山林が占めています。
- 地図を見ると顕著ですが、6区を除いた他の区は、町の南部に位置し、コンパクトにまとまっていることが分かります。
- なお、諏訪湖は、下諏訪・岡谷・諏訪の3市町で3分割されていますが、下諏訪の湖沼面積は、2.84km²であり、偶然ですが宅地面積とほぼ等しいというのは豆知識です。

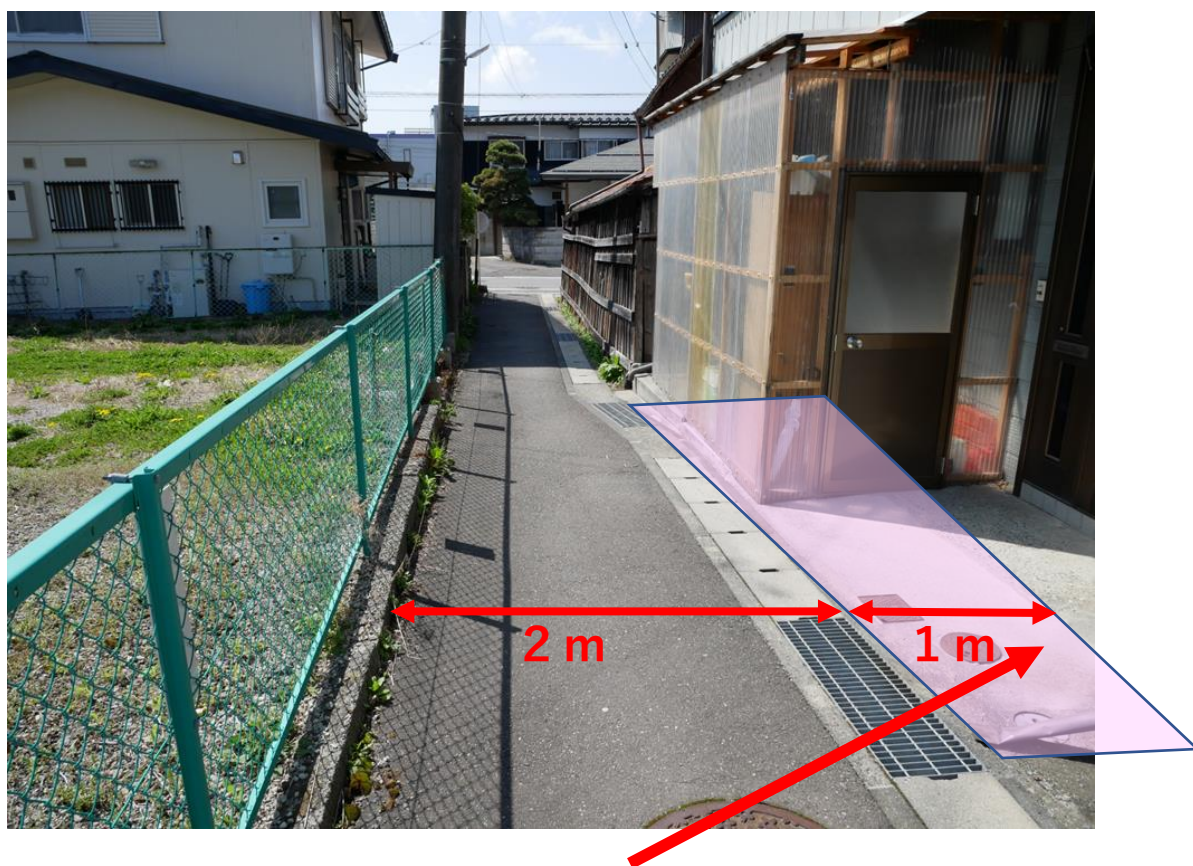
下諏訪町行政区境界図(区・町内会)



検討事案 1：土地建物の瑕疵リスク負担が困難な物件



戦前に建てられた旧耐震基準の建物。耐震補強は大がかりなものになる上に、両隣の建物とは隙間無くくっついているので、リフォーム工事、解体工事共に一苦勞です。



狭小地にも関わらず、接道路が2mしかない二項道路の為、建物而建て直す場合は、1mのセットバックが必要となります。

検討事案2：歴史的・文化的に残しておきたいが、現代の住居としての活用は難しい物件



**秋宮傍にある江戸期に建てられたお屋敷です
高島藩のお殿様が時折来られていたお屋敷のようです**



残念ですが相応に痛んでいます



お付きの者が隠れる隠し部屋



庭には小川が流れ込む池があります



奥には蔵があります



妻側の装飾も立派です



家の基礎を取り囲むように配置されている石が尋常ではありません



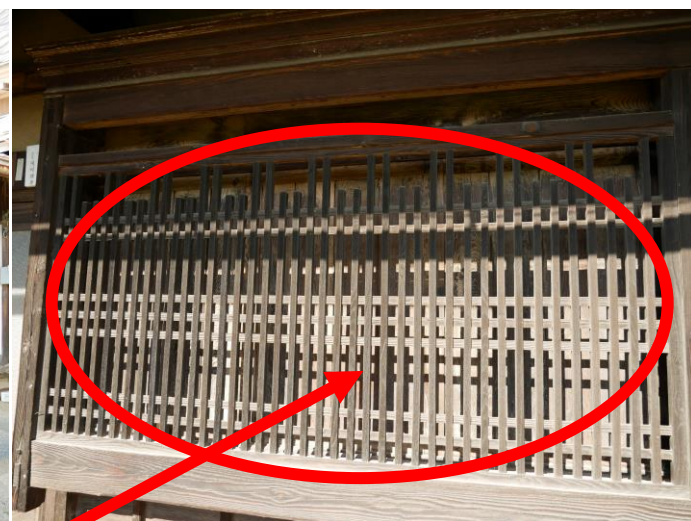
手の込んだ装飾が施されています



下の部分も洒落ています



雨戸と格子の二重構造になっています



今、このようなものを作ると如何ほどかかるでしょうね？

5 福井県池田町区長会が作成した「池田暮らしの七か条」を読んであなたはどのように思いますか？

福井新聞 2023年2月9日 午前7時20分

移住・定住政策に力を入れている福井県池田町で、区長会の提言として移住者の心得を説いた「池田暮らしの七か条」が広報誌に掲載され、町民の間に波紋が広がっている。「都会風を吹かさないう心掛けて」「品定めがなされていることを自覚して」などの文言が並び、福井新聞の調査報道「ふくい特報班」(通称・ふく特)には「高圧的」「移住の選択肢から外されてしまう」と反発する声が寄せられた。

池田暮らしの七か条

第1条 集落の一員であること、池田町民であることを自覚してください。

- 総人口の少ない池田町ではありますが、私たちは33の集落において相互扶助を土台に安全で豊かな共同社会を目指しています。

第2条 参加、出役を求められる地域行事の多さとともに、都市にはなかった面倒さの存在を自覚し協力してください。

- 池田町の風景や生活環境の保全、祭りなどの文化の保存は、集落毎に行われる共同作業や集落独自の活動によって支えられています。共同して暮らす場を守るためにも参加協力ください。
- 草刈り機は必需品です、回を重ね使い込むことで技術上達が図れます。
- このことを「面倒だ」「うっとうしい」と思う方は、池田暮らしは難しいです。

第3条 集落は小さな共同社会であり、支え合いの多くの習慣があることを理解してください。

- 生活の基盤は集落であり、長い年月に渡って様々な行事や集まりを通して暮らしを支えてきました。

第4条 今までの自己価値観を押しつけないこと。

また都会暮らしを地域に押しつけないよう心掛けてください。

- 集落での生活は、ご近所などとの密な暮らしの日々があります。都市では見られなかったルールや仕組みもありますが、皆で折り合いを付けながら培ってきたものです。
- これまでの都市暮らしと違うからといって都会風を吹かさないう心掛けてください。

第5条 プライバシーが無いと感じるお節介があること、また多くの人々の注目と品定めがなされていることを自覚してください。

- どのような地域でも、共同体の中に初顔の方が入ってくれば不安に感じるものであり「どんな人か、何をする人か、どうして池田に」と品定めされることは自然です。
- 干渉、お節介と思われるかもしれませんが、仲間入りへの愛情表現とご理解ください。

第6条 集落や地域においての、濃い人間関係を積極的に楽しむ姿勢を持ってください。

- 静かでのどかな池田町ならではの面白さとして、ご近所やいろいろな出会いの中での会話を楽しんでください。

第7条 時として自然は脅威となることを自覚してください。特に大雪は暮らしに多大な影響を与えることから、ご近所の助け合いを心掛けてください。

- 池田町は2004年の福井豪雨災害で大きな被害を受けて以来、集落防災隊長を設置し地域防災力を高める取り組みを推進しています。また、池田町には「雪で争うな、春になれば恨みだけが残る」という教えがあります。積雪時、大雪時での譲り合い、助け合いを心掛けてください。

(「広報いけだ1月号」に掲載された区長会の提言)

人間関係の煩わしさのないドライな社会保障制度が相互扶助に取って代わった都会とは異なり、地方は未だに家族や地域の人間関係で支え合うウェットな相互扶助が残っています。いや、その相互扶助無くしては共同社会を維持し得ない切実な現実があると言う方が実情に則しているのかもしれませんが。

池田町の七か条には、価値観を同じくする移住者には是非とも来て欲しい。そしてこの提言に込められた町民の思いに共感できない転入者は残念だが来ない方がお互いのため、といった町民の覚悟を感じます。

6 和歌山県田辺市の空家対策も注目されているそうですが、どう思いますか？

危険な空き家を地域で解決 田辺市の独自の取り組みが注目

老朽化した空き家の増加が全国的な課題となる中、和歌山県田辺市の取り組みが注目されている。市が空き家の所有者と隣接住民の間に立ち、解体費と登記費程度で売買が成立するよう斡旋(あっせん)する制度。危険な空き家を地域の協力で解決する手法で、全国から視察や問い合わせが相次いでいる。

市の実態調査(2018年)によると、市内の空き家数は1760件、空き家率は4.8%。中には放置されたまま老朽化が進み、倒壊の危険がある建物もある。そうした空き家の所有者は遠方に住んでいたり、高齢だったりして管理されていない場合が多い。解体費用の負担が困難で、やむなく放置しているケースもある。一方で近隣の住民は、空き家の倒壊や火災などの不安を抱えている。

そんな課題を踏まえ、2017年度に始めたのが市独自の斡旋制度だ。「不動産流通に乗らないような物件であること」「所有者や相続人が遠方または高齢で、将来的に管理不能だと予測されること」といったルールの下、市が所有者と隣接住民の間に入って意向を確認し、解体費と登記費程度で売買できるよう働きかける。

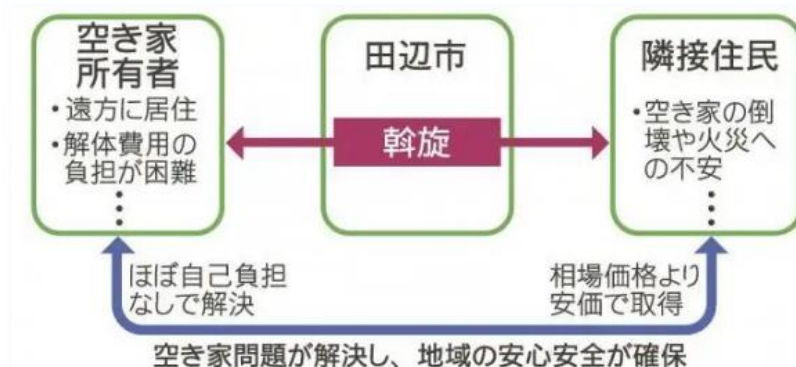
これによって、所有者はほぼ自己負担なしで空き家を処分できる。隣接住民は地域の安心安全を確保するとともに、取得した土地を駐車場や家庭菜園などに活用できる。市にとっても、懸案だった空き家問題が解決できる。

制度開始から、今年7月末までに33件(賃貸含む)が成立。国土交通省に先進事例として紹介されるなど、注目されている。

田辺市建築課の濱本栄二さん(51)が制度や事例について説明。「空き家の所有者や相続人はさまざまな要因から解決策が見いだせず、どうしたらいいのかわからなくて放置してしまっていることが多い。行政は突き放すのではなく、寄り添う姿勢が大切」と強調した。

視察した議員の一人は「鯖江市でも空き家問題には頭を悩ませている。田辺市の積極的な取り組みに感銘を受けた」と話した。

本年度はほかに、兵庫県や大分県からも視察を受け入れている。10月にも宮崎県から視察に来る予定という。



所有者はタダで「負」動産が処分できて良かったね、という話のようですが、これで本当に問題解決と言えるのでしょうか？地域の活性化にはほど遠い処分方法で満足していて良いのか、という思いが残ります。

7 行政活動における「公正さ」の重要性

行政は、公益性の高い問題について、公平性や中立性、公正さを基に、客観的に、透明性の高い活動を行う責任を担っています。減る人口、増える空家をどうにかすることは、公共性・公益性の高い問題ですが、国策とはいえ、個人の所有物である不動産の処分（売買・賃貸借・リフォーム・etc）に関し税金を配分することが、公正さの観点から適性であるかの点に一片の疑問が残ります。

冒頭に述べましたが、移住促進・空家対策は、今や殆どの自治体で行われており、自治体主催の移住フェアは活況を呈しています。国は、地方の問題解消の施策として、人口動態の歪み是正を目指しているようであり、三大都市圏在住者の地方移住に対する補助は、特に手厚いものがあります。その直接的な方策が、「都会から地方に行くなら補助金を沢山あげますよ」ですが、そこに既に住んで、地域を住みやすくしようと頑張っている人達は納得すると思いますか？

地方の人口を増やしたいのであるなら、地方が住みやすくなることに税金を配分することが公正な行政活動なのではないでしょうか。

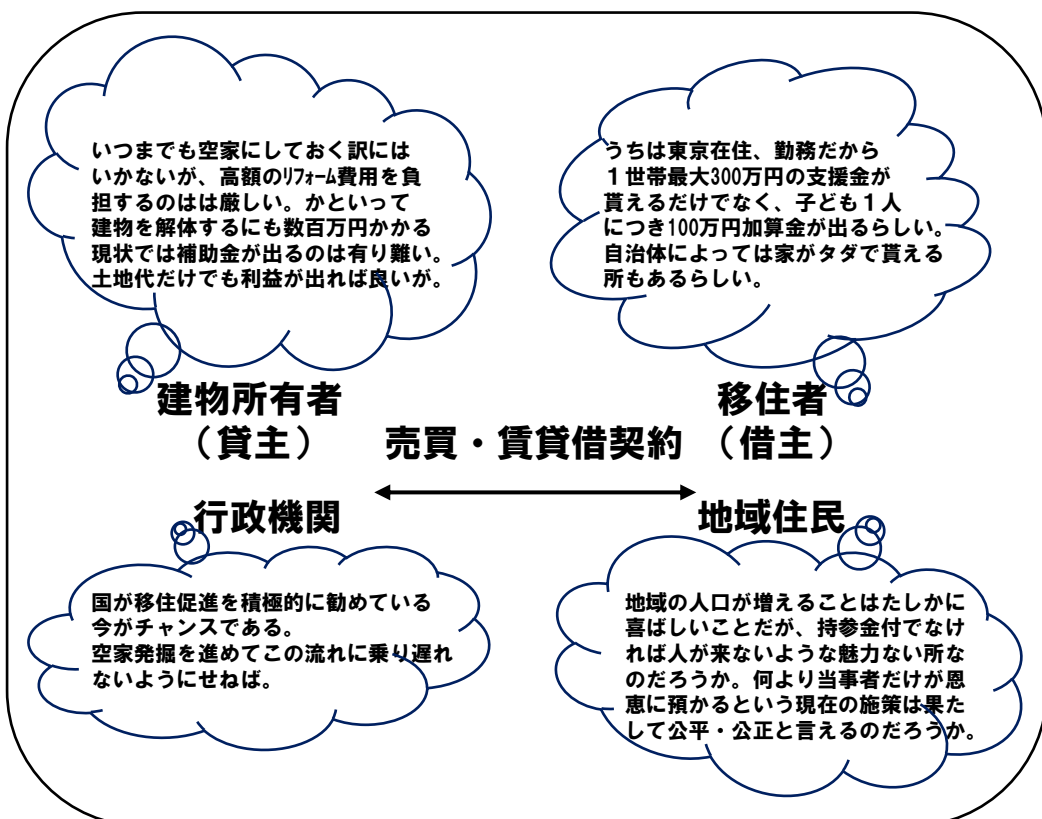
私は、自治体主催の移住フェアの来場者から「移住するのにどんな補助があるのか知りたいんだよ」と聞かれる度に、「貴方の関心は、移住先の魅力よりお金なんですか？」と問うてみたい衝動に駆られます。

8 移住者にとって、地域にとって重要なこと

本来移住者の関心は、移住後その地で満足して暮らしていけるか、地域住民と良い人間関係が築けるかだと思います。同様に地域住民も、移住者が地域になじんでくれるか、良い人間関係が築けるかに大きな関心を寄せていると思います。

しかし移住者には地域の実情は住んでみるまで殆ど判りませんし、地域住民も同様で、移住者のことは彼が来るまでは判りません。これら潜在的リスクの解消は困難ですが、おためし居住等の方法である程度は事前に把握することが出来ると思います。

移住希望者に対するお試し居住用の物件を提供する自治体が散見されますが、多くは一件だけのようです。仮に下諏訪町が御田町に物件を準備したとして、そこに数泊した希望者が体感する下諏訪はどこなのでしょう。萩倉・町屋敷・星ヶ丘・東山田・高木等にとって有り難い施策と言えるでしょうか。上記潜在的なリスク回避に必要なおためし住宅は、結局移住者の迎え入れを望む各地域が自前で準備するのが良いのではないかと思います。（出来るのならですが。）



～ 結論：で、どうするの？ 解決策はあるの？～

9 中古建物所有者が望むこと

建物をリフォームして貸し出すほどの余裕はない。解体後更地で売却するとなると、解体費用分収益が目減りしてしまうから、建物0円で土地だけでも売れば御の字である。また近隣の目もあるので、出来れば地域に受け入れられるような買主を買って（住んで）もらえたら有り難い。

10 移住（希望）者が望むこと

仕事から地域との関わり合いまで生活の大半が全く新しくなる移住は、大いなる希望に満ちあふれる反面、精神的な負担も大きい。失敗はしたくないから、お試しで住宅が沢山あって色々選べたら良いのだが。

11 地域（特に辺境）の住民が望むこと

地域生活は、相互扶助によって支えられているから、互助の精神ある人に来てもらいたい。移住希望者が地域にお試し居住をしてくれたら、地域の実情を理解してもらえる機会となり、思い違いからくる残念な移住が減るのではないか。

12 行政はどう関与すべきか

空家問題は、人口減が避けられない中の撤退戦になる。今後の空家対策は、町の未来を百年の大計で捉えた「生き残りをかけた町づくり」を意識したものとならざるを得ないであろうから、全ての地域に遍く対応していくのではないし、そうすべきではないと考える。結論として、空家対策は、行政の働き掛けを必要とするものではあるが、それだけではなく、当該地域を主人公としたもの、地域の主体的な参画を前提とした施策を採るべきだと考える。

また、単純な経済的効用だけでは計れない「歴史的・文化的物件」をどう扱うべきか、取り壊してしまったら二度と得られない、しかし指定文化財として保護できる程のものでもない、そういった物件をどのようにすべきかも考えていく必要がある。

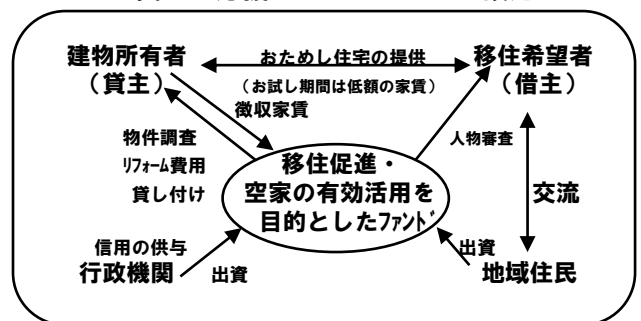
13 解決策の一例

土地価格500万円
建物価格0円（要リフォーム600万円）
地域住民20名の出資（一口20万円）400万円
リフォームファント'運営者出資 100万円
町出資（信用供与の意あり） 100万円
600万円のリフォームを行い、月額3万円、1年間のお試し期間で移住検討者に建物を貸し出す。

一年後、正式に建物を買取り、移住が正式に決まった場合の精算状況は以下の通りとなる。

売却代金1100万円（土地500万円、リフォーム費用600万円）
建物所有者 土地代金500万円
地域住民 出資額400万円
賃料一年分36万円（金利9.0%）
リフォームファント' 出資額100万円
下諏訪町 出資額100万円

貸主を応援するリフォームファント'を設定



※ 上記スキームは、事業リスク、投資リスクは考慮していない。

14 当事者のメリット

建物所有者 空家が廃屋化する前に売却出来るので、解体費用数百万円を負担せずに済み、更地価格の売却益が得られる。

移住希望者 リフォーム済の一軒家を格安の3万円/月でお試して借りることが出来る。その上で地域になじめるか、仕事や生活上の様々な懸案事項の確認をすることができる。

地域住民 移住希望者を地域に呼び込むことが出来る。またリフォームへの出資は投資的な側面を持つ。

行政機関 移住希望者向けの施設を準備するに際しての、高額な費用負担の問題と、地域間の格差発生という問題を回避することが出来る。また、移住促進に積極的な地域を応援することで、当該行為の公平・公正さが担保される。

第6節「企画書―町民がまちづくり、まちをよくしようというアイデア
～下諏訪町を学生が行き交うまちに～」滝口

人口減少に伴い行政サービスの「町民の声を聞く力」の低下が懸念される現在。今回の私の報告は「まちづくり提案書」の提案です。「まちづくり提案書」は「町民の伝える力」を補填しよりよい暮らしを手にするための一助であり、第一歩になります。情報収集と分析の上に成り立った提案は、その後の展開がより実りの多いものになります。提案書の作成が目的になってしまわないように、真の目的達成（まちづくり）に向けたプロセスを歩むことが大切になります！

提案：まちづくり提案書～まちづくりのアイデアを提案書に～

はじめに

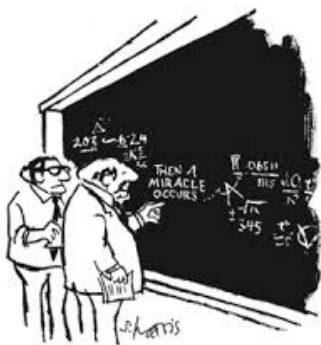
私の店では多くの方と「まちづくり」についての話をよくします。市民新聞などから着想して突拍子もないアイデアが飛び出すこともあれば、画期的と思えるアイデアが生まれることもあります。しかし、まちづくりにおいてアイデアを実現する術を持たない私たちはいつもアイデア止まり。この下諏訪町にはそんな歯がゆい思いをしている人が多くいることと思います。そこで今回提案する「まちづくり提案書」はアイデアをより具体的、確実に相手に届け実現性を高めるために考えました。

まちづくり提案書とは（目的と背景）

昨今、多様化する社会問題。今までは地方行政が率先して取り組んできましたが、全国的に進む人口減少。それに伴う税収減と行政サービスの低下が今後ますます懸念されます。今までのようにすべてを「公助」に求めるのではなく、住民を担い手として位置付け「共助」の拡大が必要になります。しかし、地方行政、住民の間で複雑に変化し続けるネットワーク。これらはときに素晴らしい相乗効果を生み出すこともあれば、同時に前例のない社会問題を生み出しています。

そこで今回提案するのが「まちづくり提案書（フォーマット）」です。今まで重要視されてこなかった町民のアイデア（意見、要望）を効率的に「まちづくり」に反映させるためにはデザインされたフォーマットが必要です。

(vid..)



(1)黒板の前に立っている学生と教授の会話。黒板には、教授が学生に解くように出題した難しい方程式が書いてある。学生は苦戦したあげくにその問題の解答として、方程式の空欄に「それから奇跡が起こる」と書く。教授はその解答に困惑し、こう言います。「2つ目のステップのここをもっと明確にするべきだろう」と。

同様のことが「まちづくりにおいてもつねに起きている。当事者たちは今どの時点にいて、どこを目指しているかを明確に述べることはできても、どのようにその望ましい結果に到達するかを述べることができず、その人たちは何かしらの外部の力に頼っているか、奇跡が起こるのを待っている。(Sydney Harris)

(2)「私たちは、良いアイデアなら黙っていても望み通りの変化をもたらすと考えがちだが、それは真実ではない」(Keith Dost)

まちづくり企画提案書により得られる効果

▶ 住民主体のまちづくりを促進

- ・地域の個性を活かし、住民のニーズに応えたまちづくり実現
- ・町民と行政が協力し、協働したまちづくりを実現
- ・住民の地域活動や社会貢献の場の提供

▶ 能力の向上

- ・コミュニケーション能力
- ・論理的思考力
- ・問題解決能力
- ・アイデア発想能力

「まちづくり提案書」には何を書くのか？

誰もが作成でき、検討され、最終的に賛同を得ることが「まちづくり提案書」には求められます。基本となるフォーマット（形式）は以下の通りです。6W2Hを意識して作成するとより具体的な提案書になります。また、データを記載した添付資料を付け加えることでより具体的な提案が可能になります。

下諏訪町《まちづくり提案書》

企画名

① 概要

② 現状分析（地域課題を踏まえて現状の問題点などをお書きください）

③ 企画内容（現状分析から課題を洗い出し企画の目的と手段を具体的にお書きください）

④ 得られる成果・メリット（企画によってどのような成果が得られるのかお書きください）

⑤ 課題と対策（企画実施上の課題と対策をお書きください）

⑥ キーワード（関連するキーワードを列挙してください）

名前：〇〇〇〇

電話番号：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

住所：長野県諏訪郡下諏訪町〇〇〇〇〇〇〇

メールアドレス：〇〇〇〇〇@〇〇〇.〇〇〇

[企画提案書の各項目]

①前置き（概要）

前置きは「つかみ」。提案書の内容によっては多少主観が入るなど、砕けた表現が許される部分です。簡潔に、要点や目的をここで述べていきます。前置きで企画の概要が、6、7割程相手に伝わるのが理想です。

②現状分析（背景）

「企画アイデアを実際に行う必要があること」を裏付けをするために現状分析を行います。地域課題を踏まえて現状の問題点と、社会環境などとの因果関係を整理して示す必要があります。

③企画内容（目的と手段）

現状分析で明らかになった問題点から解決すべき課題を洗い出し、どのように改善していき、どのような状態を目指すのかを示します。企画の目的と手段を明らかにし、具体的にどのように企画を実施すべきなのかを示します。

④得られる効果・メリット

提案によってどのような成果が得られるのかを提示します。内容によっては収益が得られることはもちろんですが、副次的な成果についても示します。そうすることで提案を多面的に伝えることができ、受け手の賛同をより得やすくなります。

⑤企画実施上の課題と対策

企画実施上の課題を認識し対策を事前に用意することで、受け手のネガティブ（反対意見）を最小限に抑え、企画成功の可能性を高めることができます。

6W2H	
Who	=誰が（実行者）
What	=何を（届ける価値）
Whom	=誰に（ペルソナ）
When	=いつ（どのようなタイミングで）
Where	=どこで（市場）
Why	=なぜ（社会的意義を前提にした理由）
How	=どのように（手段、ノウハウ）
How much	=いくらで（投入する資金など）

提案書作成のポイント

提案書は「なんとなく思いついた」程度では書くことができません。思いついたアイデア段階の企画を「実施すべきもの」と伝えるために、裏付けとなる根拠をもとに論理的に整理する必要があります。以下に代表的なフレームワークを紹介しています。

[フレームワーク]

事実を収集・整理するために上記の6W2Hのほか、以下のフレームワークが有効です。

▶ 3C / 4C分析（現状分析）

顧客（Customer）	ニーズ、構造変化、規模、成長性など
競合（Competitor）	ストロングポイント、ウィークポイント、シェア、参入の容易性など
自社（Company）	資源、ブランドイメージ、販売力、技術力など
チャンネル（Channel）	流通チャンネルやパートナーの構造変化など

分析は、顧客＞競合＞自社＞チャネルの順に行います。まずは、顧客のニーズ、規模、成長性などを書き出します。そして、その顧客に対しての競合のシェアや強み、弱みを書き出します。自社にも同じような分析を行いますが、競合との差別化を意識しすぎず、フラットな視点での分析が必要です。最後に流通チャネルの変化や新しいチャネルについて分析します。

▶ SWOT分析（現状分析・企画の目的と全体像）

内部環境と外部環境を以下4つの視点から分析します。注意すべきは目的如何によっては、どこが強みになるかなどが変わることです。そのため「組織における目的」を明確にしてから分析する必要があります。

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み (Strength)	弱み (Weakness)
外部環境	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)

▶ クロスSWOT分析

クロスSWOT分析では、SWOT分析で利用した4つの項目区分をそれぞれ掛け合わせることで、選択すべき戦略を明確にしていくことができる。

	強み (Strength)	弱み (Weakness)
機会 (Opportunity)	S × O 積極的チャレンジ	W × O 弱点強化
脅威 (Threat)	S × T 差別化戦略	W × T 問題回避

具体的な活用例

本企画は下諏訪町民もしくは下諏訪町に通勤、通学するいわゆる関連人口を対象にしており、今まで下諏訪町役場（下諏訪町なんでも相談室や各部署）などに寄せられていた様々な声を具体的、建設的に伝えることでより良い「まちづくり」を目指すものです。よって「まちづくり提案書」と回収箱を町役場や警察署、学校などに設置。また下諏訪町ホームページのお問い合わせ入力フォームなどを活用することで提案機会を増やすこと、フォーマット化で誤解を減らすことが期待できます。また集積された提案書は誰もがアクセスすることができることで提案のクオリティを高め、町民主体のまちづくりを活性化させます。

まとめ

人口減少に伴い行政サービスの「町民の声を聞く力」の低下が懸念される現在。「まちづくり提案書」は「町民の伝える力」を補填しより良い暮らしを手にするための一助であり、第一歩です。確かな情報収集と分析の上に成り立った提案は、その後の展開がより実りの多いものになります。提案書の作成が目的になってしまわないように、真の目的達成に向けたプロセスを歩むことが大切になります。

最後に

「まちづくり提案書」の活用例として「下諏訪町を学生があふれるまちに」「公衆浴場の利用料員を考える」の2つの提案をご用意しました。（別紙参照）

活用例①

下諏訪町《まちづくり提案書》	
企画名	下諏訪町を学生がふるわれる町に
① 概要	高等教育機関がない下諏訪町に、大学生や専門学生が集まる研究室を設置し、下諏訪町を研究対象にフイールワークを実施してもらうことで、下諏訪町の「まちづくり」の専門性を向上。また下諏訪町在住者との交流を促し、学生の学力・進学率向上。生涯教育環境の整備。その他副次的効果を狙う。
② 現状分析（地域課題を踏まえて現状の問題などをお書きください）	① 下諏訪町内に大学（専門学）がないことで町内学生と大学生との交流機会が少ないことは他地域の学生と比較して学力/進学率が低い一原因となっている。 ② 都市部へ労働機会、生きがい求めて若者（労働人口）の人口減少の対策が必要。 ③ 町内学校の余裕教室（空き教室）の新たな活用方法創出が課題。 ④ 矢崎商店跡（同町御田町）の活用方法が見出せていない。町内の当物件に対する町民の注目度が高い。 ○主に都市部の大学生が新型ウイルスなどの影響によりコミュニケーション機会や実地体験の機会を求めている。
③ 企画内容（現状分析から課題を洗い出し企画の目的と手段を具体的ににお書きください）	③ 企画内容（現状分析から課題を洗い出し企画の目的と手段を具体的ににお書きください） 町内学校の余裕教室を活用して各分野の「研究室」を設置。全国から実地体験、コミュニケーション機会を求める大学生/専門学校生などが下諏訪町に集まり各分野（まちづくり、観光、福祉、スポーツなど）でフイールワークを交えて各分野の研究のために果敢。下諏訪町をひとつのサンプルとして町民と共助で「まちづくり」を行なってもらう。日常的な町内の学生（小学生～高校生）、町民との触れ合い機会創出によりさまざまな副次的効果を期待。また、学生主体や町主体での企画（e.g.専門分野の教授による講義、フェスティバル開催）などの余暇活動の充実にも期待。
④ 得られる成果・メリット（企画によってどのような成果が得られるのかお書きください）	④ 得られる成果・メリット（企画によってどのような成果が得られるのかお書きください） ① 現役大学生/専門学校生と町内学生（小学生～高校生）の交流から学習意欲向上を期待。学力、進学率の向上。多様な世界観、価値観を育む。 ② 町外者がまちづくりに加わることで客観的に下諏訪町の魅力や課題を見つめ直すことができる。地域愛が芽生えまちづくりへの積極的な参加、一度は町外へ転出したもののUターンを促すことができる。 ③ 既存の施設を利用することで施設の老朽化、不要なハコモノの建設を防ぐことができる。 ④ 町内にある矢崎商店跡のような遊休物件（空き家）の有効活用ができる。 ⑤ 年齢や性別など属性が違ふ他者との交流は子どもたちの社会化において好影響。
⑤ 課題と対策（企画実施上の課題と対策をお書きください）	⑤ 課題と対策（企画実施上の課題と対策をお書きください） △余裕教室、空き家の活用では不特定多数の利用者が出入りするためセキュリティ面、ご近所との良好な関係の構築が課題。 △研究＋α。付加価値の継続的提案が必要。飽きさせないプログラム。 △町民（子ども～大人）の生活、まちづくりにおいて不可欠なものにする。 △義務ではなく「権利」として参加を促す、環境づくり。
○キーワード（関連するキーワードを列挙してください）	○キーワード（関連するキーワードを列挙してください） ・教育・小学校・中学校・大学・専門学校・学生・余暇活動・生涯教育・空き家・余裕教室・進学率・移住・関係人口・労働人口・少子高齢化・社会化
名前：滝口 昂太	住所：長野県諏訪郡下諏訪町〇〇〇〇〇〇〇〇
電話番号：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	メールアドレス：〇〇〇〇〇〇@〇〇〇〇.〇〇〇

活用例②-1

下諏訪町《まちづくり提案書》	
企画名 公衆浴場の利用料金を考える～町外利用料金の設定～	
① 概要 令和5年4月1日より下諏訪財産区が運営する公衆浴場（新湯・遊泉ハウス児湯・旦過の湯）が、電気料金の高騰などに伴い、入浴料の一律値上げ（大人一回あたり40円値上げして280円）を決定している。さらに今後更なる値上げが見込まれる。これに対して、下諏訪町民と町外利用者の利用料金を区別して設定することを提案します。	④ 得られる成果・メリット（企画によってどのような成果が得られるのかお書きください） ① 日常的に当施設を利用している町民の生活の質の改善・向上。 ② 区別した利用料を設定することで町内/町外利用者双方のニーズを満たす。 ③ 計画的な利益を追求することで持続可能性の高い運営が可能になる。 ④ コミュニケーション機会を継続的に提供することで、地域力の維持。利用者の健康維持、生きがいを創造。 ⑤ 公衆浴場を表面的な観光資源ではなく、本質的な観光資源と捉えることで流行に影響されにくい盤石な運営が可能になる。 ⑥ 利用料金を区別することで、町内在住者の心に余裕が生まれることを期待。町内在住者の利用料金を引き下げることで更なる効果を期待。
② 現状分析（地域課題を踏まえて現状の問題点などをお書きください） ① これまで段階的に入浴料の値上げが行われ、その度に日常的に利用する利用者の生活を逼迫してきた。値上げ（一回あたり40円）で年間13,273円の負担増。 ② 値上げ後の利用料（280円）に対して町内在住者と町外利用者のイメージは異なる。町内在住者（日常の利用者）→高い。今後の値上げが不安。町外利用者（観光客含む）→安い。 ③ 当施設の経営を逼迫させている原因は、電気料金の高騰と利用者の減少。 ④ 当施設は、入浴施設としてだけでなくコミュニケーション施設としての役割を併せ持つ。 ⑤ 古くから温泉のある門前町/宿場町として来え、今でも当施設は観光資源としての価値も高い。 ⑥ 従来から日常的に利用してきた町民が、移住者や観光客等に対する執拗な態度が問題視されている。また、一部施設従業員の態度が問題との声も上がっている。	⑤ 課題と対策（企画実施上の課題と対策をお書きください） △当提案の主要効果（売上増）は未知なため1～2施設でサンプリングを行う。【※別紙参照】 △町内在住者と町外者を識別する仕組みが必要。（e.g.身分証の提示、温泉バスポートの発行）
③ 企画内容（現状分析から課題を洗い出し企画の目的と手段を具体的にお書きください） ○町内在住/町外在住の利用料金を区別する。（e.g.町内在住者：240円/町外利用者：400円） ○月額定額料金（ササスクリション）の導入。（e.g.月額5,000円）	○キーワード（関連するキーワードを列挙してください） ・温泉・公衆浴場・観光・福祉・電気料金・生活

名前：滝口 昂太

電話番号：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

住所：長野県諏訪郡下諏訪町〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

メールアドレス：〇〇〇〇〇〇@〇〇〇〇.〇〇〇

活用例②-2

		(S)強み	(W)弱み
SWOT分析と取組提案表 (内部要因) ■STRENGTH (強み) ■WEAKNESS (弱み) (外部要因) ■OPPORTUNITY (機会) ■THREAT (脅威)		S1 観光+公衆浴場 「暮らすように浴が」できる」まち S2 早朝からの営業 S3 徒歩圏内に8軒の公衆浴場 S4 風呂はコミュニケーションの場 S5 全国的にみても安価な利用料金 S6 多様な泉質、湯温 S7 温泉は健康面で有益 S8	W1 シャンプーや石鹸がない 風呂セット持参必須 W2 新参者に厳しい 嫌がらせ行為が散見 W3 インフラ、施設の老朽化が進んでいる W4 物価上昇の影響を受けやすい 利用料の段階的な値上げ W5 バイパス貫通工事が与える水脈への影 響とそれに伴う不安 W6 W7 W8
(O) 機会	O1 観光の視点が地方に移行 O2 DIYブーム O3 テレワーク人口の増加 O4 自然を活用した観光への関心 O5 Well-Being (幸福度) の追求 O6 温泉 (銭湯)、サウナブーム O7 グローバル化の進展 O8 地方移住の活発化	【積極的チャレンジ】 強みを武器にして機会を最大限に活かす #1 温泉をきっかけにした移住を意識 (S1,S2,S3,S5/O1,O4,O7) #2 コミュニティの場を意識した場づくり (S4/O5) #3 町外に温泉の町をアピール (S6/O6) #4 温活を仕掛ける (S7/O7) 温泉を活用した健康づくりのPR #5 #6 #7 #8	【弱点強化】 弱みによって機会を失わないように対策を打つ #9 観光客向けにお風呂セットを販売 (W1/O1,O3,O4) #10 キビソタオルなどお風呂セット開発 (W1/O1,O3,O4) #11 利用ルールの再提言 (W2/O1,O3,O8) #12 施設のリペアワークショップ (W3/O2) #13 料金設定を町内と町外で区別 (W4,W2/O1,O3,O8) #14 #15 #16
(T) 脅威	T1 人口減少・超少子高齢化 地域力 (自助力) の低下 T2 住環境や雇用条件を理由とする若年層などの人材流出・都市部人口集中 T3 貧困・虐待 (児童・高齢者) T4 豪雨や地震被害 T5 地球温暖化・自然破壊・環境汚染 T6 インフラ老朽化 T7 不安定な社会保障制度 T8 原材料費、水道光熱費の高騰	【差別化戦略】 強みを活かして脅威に対抗する #17 日常的に対面機械を増やし健康寿命延伸、生きがいの創出 (S3,S4/T1,T4) #18 温泉から自然環境を考える (S6,T6) #19 計画的に収益を獲得しインフラ整備に充てる (S1,T6) #20 貧困世帯への衛生面での援助 (S7/T3) #21 #22 #23 #24	【問題回避】 弱みと脅威が重なる最悪の事態を回避する #25 より良い環境づくりが、利用客増につながり、利用料を抑えることを周知 (W2,W4/T8) #26 全国的に進むインフラ老朽化。施設の修繕費を他の財源に頼ることがないように自助力を高める仕組みが必要 (W3/T6) #27 利用者増大が難しい状況。現利用者の意識改革と新規利用者の呼び込みが必要。26の日のような (W2/T2) #28 バイパス工事が与える水脈への影響を考えつつ、アフターバイパス構想への戦略的参加 (T5,W5) #29 #30 #31 #32

・町民料金を¥100～320で試算。町外者料金を¥400で固定。
・一日の利用者100名として、町民：町外者を100：0～0:100で試算。

町民	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250	260	270	280	290	300	310	320
町外者	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400
100:0	10,000	11,000	12,000	13,000	14,000	15,000	16,000	17,000	18,000	19,000	20,000	21,000	22,000	23,000	24,000	25,000	26,000	27,000	28,000	29,000	30,000	31,000	32,000
0:100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
90:10	10,000	11,000	12,000	13,000	14,000	15,000	16,000	17,000	18,000	19,000	20,000	21,000	22,000	23,000	24,000	25,000	26,000	27,000	28,000	29,000	30,000	31,000	32,000
	9,000	9,900	10,800	11,700	12,600	13,500	14,400	15,300	16,200	17,100	18,000	18,900	19,800	20,700	21,600	22,500	23,400	24,300	25,200	26,100	27,000	27,900	28,800
	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	13,000	13,900	14,800	15,700	16,600	17,500	18,400	19,300	20,200	21,100	22,000	22,900	23,800	24,700	25,600	26,500	27,400	28,300	29,200	30,100	31,000	31,900	32,800
	8,000	8,800	9,600	10,400	11,200	12,000	12,800	13,600	14,400	15,200	16,000	16,800	17,600	18,400	19,200	20,000	20,800	21,600	22,400	23,200	24,000	24,800	25,600
80:20	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
	16,000	16,800	17,600	18,400	19,200	20,000	20,800	21,600	22,400	23,200	24,000	24,800	25,600	26,400	27,200	28,000	28,800	29,600	30,400	31,200	32,000	32,800	33,600
	7,000	7,700	8,400	9,100	9,800	10,500	11,200	11,900	12,600	13,300	14,000	14,700	15,400	16,100	16,800	17,500	18,200	18,900	19,600	20,300	21,000	21,700	22,400
70:30	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
	19,000	19,700	20,400	21,100	21,800	22,500	23,200	23,900	24,600	25,300	26,000	26,700	27,400	28,100	28,800	29,500	30,200	30,900	31,600	32,300	33,000	33,700	34,400
	6,000	6,600	7,200	7,800	8,400	9,000	9,600	10,200	10,800	11,400	12,000	12,600	13,200	13,800	14,400	15,000	15,600	16,200	16,800	17,400	18,000	18,600	19,200
60:40	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000
	22,000	22,600	23,200	23,800	24,400	25,000	25,600	26,200	26,800	27,400	28,000	28,600	29,200	29,800	30,400	31,000	31,600	32,200	32,800	33,400	34,000	34,600	35,200
	5,000	5,500	6,000	6,500	7,000	7,500	8,000	8,500	9,000	9,500	10,000	10,500	11,000	11,500	12,000	12,500	13,000	13,500	14,000	14,500	15,000	15,500	16,000
50:50	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	25,000	25,500	26,000	26,500	27,000	27,500	28,000	28,500	29,000	29,500	30,000	30,500	31,000	31,500	32,000	32,500	33,000	33,500	34,000	34,500	35,000	35,500	36,000
	4,000	4,400	4,800	5,200	5,600	6,000	6,400	6,800	7,200	7,600	8,000	8,400	8,800	9,200	9,600	10,000	10,400	10,800	11,200	11,600	12,000	12,400	12,800
40:60	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000
	28,000	28,400	28,800	29,200	29,600	30,000	30,400	30,800	31,200	31,600	32,000	32,400	32,800	33,200	33,600	34,000	34,400	34,800	35,200	35,600	36,000	36,400	36,800
	3,000	3,300	3,600	3,900	4,200	4,500	4,800	5,100	5,400	5,700	6,000	6,300	6,600	6,900	7,200	7,500	7,800	8,100	8,400	8,700	9,000	9,300	9,600
30:70	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000
	31,000	31,300	31,600	31,900	32,200	32,500	32,800	33,100	33,400	33,700	34,000	34,300	34,600	34,900	35,200	35,500	35,800	36,100	36,400	36,700	37,000	37,300	37,600
	2,000	2,200	2,400	2,600	2,800	3,000	3,200	3,400	3,600	3,800	4,000	4,200	4,400	4,600	4,800	5,000	5,200	5,400	5,600	5,800	6,000	6,200	6,400
20:80	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000
	34,000	34,200	34,400	34,600	34,800	35,000	35,200	35,400	35,600	35,800	36,000	36,200	36,400	36,600	36,800	37,000	37,200	37,400	37,600	37,800	38,000	38,200	38,400
	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	2,300	2,400	2,500	2,600	2,700	2,800	2,900	3,000	3,100	3,200
10:90	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000
	37,000	37,100	37,200	37,300	37,400	37,500	37,600	37,700	37,800	37,900	38,000	38,100	38,200	38,300	38,400	38,500	38,600	38,700	38,800	38,900	39,000	39,100	39,200
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0:100	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000

141%～

～140%

～130%

～120%

90～110%

～80%

～70%

～60%

～59%

- ・町民料金を240で固定。町外者料金を¥240～500で試算。
- ・一日の利用者100名として、町民：町外者を100：0～0:100で試算。

・一日の利用者100名として、町民：町外者を100：0～0.100で試算。

项目/地区	第一季度										第二季度										第三季度										第四季度										全年总计					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		5月	6月			
华东地区	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000	26000	27000	28000	29000	30000	31000	32000	33000	34000	35000	36000	37000	38000	39000	40000	41000	42000	43000	44000	45000	46000	47000	48000	49000	50000							
华南地区	11000	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000	26000	27000	28000	29000	30000	31000	32000	33000	34000	35000	36000	37000	38000	39000	40000	41000	42000	43000	44000	45000	46000	47000	48000	49000	50000						
华北地区	10000	11000	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000	26000	27000	28000	29000	30000	31000	32000	33000	34000	35000	36000	37000	38000	39000	40000	41000	42000	43000	44000	45000	46000	47000	48000	49000	50000					
华中地区	9000	10000	11000	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000	26000	27000	28000	29000	30000	31000	32000	33000	34000	35000	36000	37000	38000	39000	40000	41000	42000	43000	44000	45000	46000	47000	48000	49000	50000				
西南地区	8000	9000	10000	11000	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000	26000	27000	28000	29000	30000	31000	32000	33000	34000	35000	36000	37000	38000	39000	40000	41000	42000	43000	44000	45000	46000	47000	48000	49000	50000			
西北地区	7000	8000	9000	10000	11000	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000	26000	27000	28000	29000	30000	31000	32000	33000	34000	35000	36000	37000	38000	39000	40000	41000	42000	43000	44000	45000	46000	47000	48000	49000	50000		
东北地区	6000	7000	8000	9000	10000	11000	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000	26000	27000	28000	29000	30000	31000	32000	33000	34000	35000	36000	37000	38000	39000	40000	41000	42000	43000	44000	45000	46000	47000	48000	49000	50000	
其他地区	5000	6000	7000	8000	9000	10000	11000	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000	26000	27000	28000	29000	30000	31000	32000	33000	34000	35000	36000	37000	38000	39000	40000	41000	42000	43000	44000	45000	46000	47000	48000	49000	50000
总计	60000	66000	72000	78000	84000	90000	96000	102000	108000	114000	120000	126000	132000	138000	144000	150000	156000	162000	168000	174000	180000	186000	192000	198000	204000	210000	216000	222000	228000	234000	240000	246000	252000	258000	264000	270000	276000	282000	288000	294000	300000	306000	312000	318000	324000	330000

活用例②-4

3.下諏訪の子ども・若者の意識と願い

はじめに

本レポートは令和4年度に下諏訪町公民館講座として開講された「下諏訪みらい塾」の「若者グループ」により行われた若者インタビューのまとめである。「若者グループ」とは、「若者が何を考えているのかを聞いてみたい」という共通の問題意識を持った本講座塾生5人（町内在住）により構成された。

行政調査などでは全体的な数値を見ることは出来るが、生の声を聴くことは困難である。そのため当グループでは計4回のインタビューと若干のアンケートを行った。

1 インタビュー調査設計

（1）調査の名称 「下諏訪町の若いみなさんの声を受け止めたい調査」

（2）調査の目的

近年の人口減少のうち社会減の対策として町は重点施策として取り組んでいる。本調査では若者のUターンまたはIターンの可能性を探ることを目的とした。

どのような条件が必要なのか、あるいは現代の若者にはどんな困難があるのかといった実態や、彼らの問題意識を探るため、率直に語ってもらった。

（3）調査の方法と内容

インタビュー調査の手法の導入を積極的な提案がアドバイザーから受けて、統計調査によらず、個々の若者の生活とその意識を探る手法によって、若者像へ接近することにした。一人一人にあたり面接することが必要であるとは思いつつも、集団面接にした。のちに、これでホンネが出るのかという塾生からの厳しい指摘もあり、反省すべき点となった。学生、公務員、若い移住者と家族、さらに、町内高校の高校生を対象に実施した。

2 インタビュー調査の結果

(1) 面接調査の対象者について

■第1回 令和4年8月11日(木) 学生3人

- ・Aさん(女性) 大学1年生 関東地方大学在学中 専門：医療系
下諏訪出身。将来はNGOなどで働きたい。将来の居住は就職先次第。
- ・Bさん(女性) 大学2年生 関東地方大学在学中 専門：映像系
下諏訪出身。将来は映像系の仕事がしたい。将来の居住は就職先次第。
- ・Cさん(女性) 高校2年生 近隣市に家族と在住。保育士・幼稚園教諭になりたい。自宅から通える付近の大学への進学を希望している。就職も近隣が良い。

■第2回 令和4年11月4日(金) 公務員3人・全員職歴は5年未満

- ・Dさん(20代女性) 公務員 町内在住
下諏訪出身。高校卒業後就職し現職。家族の影響で公務員を選んだ。
- ・Eさん(20代男性) 公務員 県外出身、町内在住(ひとり暮らし)
国内各地に居住経験あり。大卒後民間勤務。親類の縁で転職し現職。
- ・Fさん(20代男性) 公務員 県外出身、町内在住(ひとり暮らし)
大卒後民間勤務。学生の頃旅行で来諏訪したことがきっかけで転職し現職。

■第3回 令和4年12月26日(月) 移住者1人と家族1人

- ・Gさん(30代女性) 大学卒業後大手通信系企業に就職
関東地方、県内などを転々とし大学は東京。下諏訪町には小学校から高校まで。
夫婦とも在宅ワークが可能になり、実家に土地があったことで下諏訪へ移住。
地方での子育てを希望。夫婦とも時々東京へ出社が必要。

＜参考＞夫(同席なし) (30代男性) 大学卒業後大手金融系企業に就職
西日本出身。大学は東京。下諏訪には今回が初めて
母(同席) (60代) 下諏訪町生まれ、夫が転勤族

■第4回 令和5年1月30日（月）町内高校の高校生3人

- ・Hさん(女性) 高校生 上伊那地方在住 電車通学
姉の影響で歯科衛生士を希望。進学、就職は地元を希望
- ・Iさん(女性) 高校生 諏訪地方在住 電車通学
看護師を目指している。都内大学へ進学希望。就職は県外を希望。
- ・Jさん(男性) 高校生 諏訪地方在住 電車通学
都内大学進学を希望。その後の進路は未決。
生活費や仕事のやりがい、収入などを勘案して考えたい。

(2) アンケート調査の対象者について（移住者2人、大学生1人）

- ◆Kさん(20代女性) 移住者、社会人 関東地方出身 町内在住
学生時代の地方でのアルバイト経験から地方への移住を決意。
- ◆Lさん(40代男性) 移住者、起業希望 関東地方出身 町内在住
現在はアルバイトをしながら町内での開業を準備している。
- ◆Mさん(10代男性) 大学生 中京地方在住

3 調査結果の分析

(1) 家族について

特になし（全員）

◆明らかにしたこと

保護者が30代から50代と若く、疾病その他の問題は起きていない。

◆判明しなかったこと

両親が健在な対象者がほとんどだったため、家族問題の困りごとについてはお話が聞けなかった。家計が不安定な人はどのように感じているのかは別途調査が待たれる。また、長男には何か特別が期待がされるのかについては今後機会があればインタビューしてみたい。

(2) 仕事（将来の就職）について

①現在仕事をしている対象者

勤務継続が不安。長時間勤務による健康の悪化、給与待遇など（公務員）

- ・家族を見て今の仕事を選んだ（公務員）
- ・自分の希望する業種に開業に適した店舗が見つからない（移住者）
- ・小商いをやりやすい町にしてほしい。シェアオフィスを作るとか（移住者）

◆明らかにになったこと

- ・仕事の継続と住居の確保が将来への定着の鍵。
- ・若年者の勤務環境は悪化しており、長期雇用慣行下にある公務員でも将来に不安を感じている。
- ・職業選択に両親や家族の影響が見られた

◆判明しなかったこと

- ・民間企業の従業員や自営業者へのインタビューも必要
- ・地元企業が若者の雇用についてどのような考えでいるのか

②大学生、高校生（将来の就職について）

- ・域外への就職を考えていない（高校生 2人）
- ・帰ってくることを考えていない（高校生 1人）
- ・帰って来るかは大学の専門と仕事、居住関係の関係による（大学生、高校生）
- ・帰ってきたい。都会のような人が多いところは苦手。地方の生活に不自由は感じない（大学生1人）

◆明らかにになったこと

- ・大学の専門や希望する業種によっては地方に就業機会がないことから、Uターンがそもそも困難である。地方の環境や地元への愛着からこの地域で就職したいと考える人もいた。

（３）就職活動に必要と考えられる取組みや支援（大学生、高校生）

- ・帰省期間が長くなることで、人と接する機会が増える。そのためには帰省中のアルバイトがあると長い期間滞在できる（大学生）。
- ・地元の企業の情報が少ない（大学生、高校生）。どこで得れば良いかもわからない。

◆明らかにになったこと

- ・地域の企業の情報に触れる機会として、帰省時に形成されるネットワークがヒントになる。
- ・以前に比べ多くの学生はアルバイト収入を必要としている。長い期間帰省するためには必須。

◆判明しなかったこと

- ・企業合同説明会の情報が出るスケジュールが学生に届いていなかった。企業はどのように考えているのか。

（４）下諏訪（諏訪地方）への愛着度

（下諏訪町に実家がない場合は自分の住む地域に置き換えて回答）

1：好きだ	10人
2：どちらかという人喜欢だ	3人
3：どちらかという人喜欢でない	1人
4：喜欢でない	0人
5：わからない	0人

【理由①】 環境など

- ・湖と山を一望できる環境が良好（移住者）
- ・自然に囲まれた田舎だが、生活に困らない利便性、適度な田舎感が良好（移住者）
- ・宿場町の雰囲気が残る街並が良好（移住者）
- ・都会でも田舎でもない中途半端な不便さがある（公務員）

【理由②】 人間関係

- ・人と人との距離感がちょうど良好（複数）
- ・移住者を受け入れてくれる雰囲気がよい（移住者）
- ・移住者の方々が更に街をよくしようという思いを持っている（移住者）
- ・地域の役員決めで揉めることがある。地域活動に抵抗感を持つ人もいる（公務員）

【理由③】 住宅コスト、子育て環境

- ・住宅コストについて

夫婦ともリモートワークが可能となり、都会で2部屋ある部屋を借りる（買う）のはコスト高。地方ならそれができる。実家が下諏訪にあって家族が住んでおり、土地があったことから下諏訪町への移住を決めた（移住者）

- ・子育て環境について

競争社会に子どもを置きたくないため田舎で子育てがしたいと考えた。幼少期の受験での失敗がその子に与える影響が心配。地方でもそれなりに育つはず（移住者）

(5) あなたの故郷はどこか（移住者以外）

1：下諏訪町 2：諏訪地方 3：長野 4：その他 5：わからない

「答えは質問者によって変わる」（全員）

誰に尋ねられるのかにより回答が変わる。県外者相手ならば「長野」、県内であれば「諏訪地方」と答える。「市町村名を答えてもわからないのでは」との意見あり。

◆明らかになったこと

帰属意識や地域への愛着の問題とは別に、客観的に自分が住む地域を見つめており少なくとも「下諏訪町（諏訪）はとても有名」と考えている若者はいなかった。

(6) 店が少なくて不便か

- ・駅前にコンビニ、あるいは軽食を買える店が欲しい（複数）
- ・電車の待ち時間に、ちょっとした食べ物を買いたい。例：80円おにぎり（高校生）
- ・DIY、家具、買回り品などの店が町外にしかないことが不便（移住者、公務員）
- ・ジャスコ（イオン）が無いことから歩いて買い物に行けない高齢者が困っている
- ・生鮮食品などの買い物ができるところが将来無くならないか不安（公務員）
- ・欲しい店はあるが、商売として成立するのだろうか（公務員）

◆明らかになったこと

- ・生鮮品や日用品についての不便と将来への懸念についての意見が複数聞かれた。
- ・通学、通勤の際に電車を利用するためか、駅前に商店がないことを不便に感じている。自分以外の住民の要望を意見として話してくれた対象者もいた。

(7) 下諏訪（諏訪地方）にあったらいいなと思うもの

- ・市街地に生活必需品、家具屋などがあった方が良い（公務員）
- ・カフェが欲しい（どんなカフェがあるのか知らない）（高校生）
- ・本屋さんが欲しい（複数意見）。
- ・映画館。最新の作品よりも過去の作品を町民のリクエストも反映させながら上映してくれるような、町の雰囲気にも馴染むもの（移住者）
- ・家族層が気軽に食事（軽食も含め）できる飲食店。駅より北側にほしい（移住者）

- ・カラオケが欲しい（高校生）

（８）駅や町の中心部のまわりへの工夫

- ・大きな商業施設を作るより、今の環境を守ってほしい（大学生）
- ・観光的な発展より歩きやすさ、駅前の利便性向上を図った方が良い（公務員）
- ・取り組むことを絞った方が良いのではないかと（公務員）
- ・観光的発展ということなら、現状では人が秋宮に集まっているので大社通りを基本にまちづくりを進めると良いと思う（高校生）
- ・岡谷市のレイクウォークの店の内容に変化がない。もう少し頻繁に変えてほしい（高校生）
- ・地域性のある内容にすると良いと思う（移住者）
- ・１年を通じてそれぞれの季節感をしっかり出すことが大切だと思う。ハロウィンのかざりや冬はイルミネーションなど（大学生）
- ・お店には季節限定メニューを出してもらったりなどをして、ちょっと出かけたくなる町にできたら良いと思う（大学生）

（９）地域の行事・イベントに参加経験と意向

- ・地元の茅野どんぼんにはよく遊びに行った（高校生）
- ・地区の役員決めで家族が苦勞していた（公務員）
- ・（参加したことが）ない。どこでどう実行委員会が動いているのか全くわからない。周りの人も誰も教えてくれない（移住者）

◆明らかにしたこと

- ・地域の祭りには子どもころは参加していたが、高校生以降は市町村単位の祭りには遊びに行っている
- ・地域の情報提供は回覧板だけでなく、地域の掲示板などで広報すれば情報が提供しやすいか。また、移住者や若者と地域をつなぐ役割の人が必要。
- ・子どもなどがいると地域の付き合いができ、情報を得やすい

◆判明できなかったこと

一般に地域行事に参加している人はどこで情報を得ているのか。地域との橋渡しをする役割の人には、どんな人がいるのか。あるいはふさわしいのだろうか。

(10) これからの下諏訪町の重点施策

①安全、道路など

- ・冬は道路が凍って歩くのが危険（高校生）
- ・国道横断に危険箇所がある（高校生）
- ・夕方など道路が暗く凍結部分が見えない。スマホで足下を照らして歩いている（高校生）
- ・道が狭く、高齢者などが歩きにくい（公務員）

②交通

・**鉄道** 時々東京の会社に出社する必要があるため、あずさの利便性が鍵となる。仕事が終わって新宿からあずさに乗る場合、下諏訪に停車するちょうど良いあずさが無い。新幹線のある佐久市などとの比較になってしまうと、利便性という点では劣ってしまう（移住者）

※注：東京で18時台に仕事を終え、電車に乗る場合

新宿 17:00→→→→→→→→→→下諏訪着 19:20	間に合わない
18:00→ 上諏訪乗換 20:22→下諏訪着 20:27	上諏訪駅 5分乗換待ち
19:00→→→→→→→→→→下諏訪着 21:24	

・**町内交通** 朝のあざみ号を通学に利用しているが、満員で乗れないことがある。増便などできないか（高校生）。

③その他

- ・移住のための補助金の下諏訪町にはない。入口で対象から除外されていないか（移住者）
- ・子育て分野での行政支援策が充実していると良いと思う（移住者）
- ・どんな街づくりをするかは、その町の人次第だと思う（大学生）
- ・学生がどうしたいのか聞く機会がないことが問題。接点を作ることが必要（移住者）
- ・学生さんたちは意外と町の人やお店を知る機会が少ないため、そのような人たちと交流できることが必要（移住者）
- ・空気・水がおいしい自然が豊かな町というところを主軸に、プラスで若者がちょっと歩きたくなるようなものを取り入れればよいと思う。

4 二十歳を祝う会 アンケート

上記のインタビューとは別に二十歳を祝う会（旧成人式）で簡易なアンケートを行った。

（１）質問 「あなたは下諏訪町に住みたいですか」

（下諏訪町非居住者には、「帰ってきたいか」に置き換えて回答してもらう）

（２）実施日時と場所

令和５年１月８日（日） 下諏訪総合文化センター 入口ロビー

（３）実施方法（任意回答）

・自分の該当する答えの場所にシールを貼ってもらう形式

（４）結果

	はい	いいえ	未定・まだわからない ・その他
社会人	９人（男 ９、女 ０）	５人（男 ３、女 ２）	３人（男 ２、女 １）
学生	４６人（男 １７、女 ２９）	４人（男 ０、女 ４）	２５人（男 １６、女 １１）
その他	１人（男 １）	０人	１人（男 １）

（来場 １ ３ ８ 人中 ９ ３ 人が回答）

（５）考察

下諏訪町に印象の良い人が回答してくれたためこの結果になった可能性もあるが、シールを貼る際にお話をお聞きした内容からは全体的にはＵターンに前向きな発言がほとんどだった。学生が「はい」か「未定・まだわからない・その他」に割れた。

「いいえ」と回答した方は「仕事の関係で転勤が決まっている」などの回答がほとんどだった。「その他」の方は現在仕事をしていないが、将来のために準備をしているというお答えだった。

男女別では学生のうち女性で「はい」と答えた人が 29 人、「未定」と答えた人 11 人を上回る傾向が見えた。女性の方がＵターンに前向きなのか、そもそも県内学校に進学しているのかはこのアンケートでは不明である。また、回答者への簡単な聞き取りから文系・理系などの違いが傾向の違いとなっている可能性があるが、

数値で示すことは出来なかった。以降の課題である。

5 子ども・若者の意識調査による課題

グループメンバー全員から提出された感想は下記の通り。

【メンバー1】

成人式での学生は県外の専門学校や大学に進学した中で理系の人は下諏訪に戻ると明確に答えた人は皆無に近かった。他方県内の学校に進学した人たちは圧倒的に下諏訪に戻るとの答えだった。

近年関東地方の大学では経済的な理由から自宅からの通学者が多い傾向にあるとのことだが、下諏訪でも同様の傾向にあると感じられた。下諏訪向陽高校では3人の生徒から伺ったが、全員が町外への進学希望者であった。創立以来在籍の生徒の傾向はどの様になっているのだろうか。また、就職と進学の割合はどのようなのだろうか。若者が定着してくれているのは、どのくらいの数値なのだろうか。中学生にも聴いてみたいものである。

若い人から直接面接によるアンケートの実施は実に面白く楽しかった。高校生や大学生は駅前に本屋や勉強やおしゃべりのできるスペースがあると良いという声が多かった。茅野駅、上諏訪駅、岡谷駅等にはそのようなスペースがあるので利用することが出来るが、下諏訪駅周辺にはコンビニやファミレス、ファーストフードなどが無いので、何とかならないのだろうか。

現実的には駅前には大企業があり、あとは駅前商店街で駐車場のスペースが皆無であり、かなり難しい問題ではあるが、提案したいことがある。

- 1 日本電産サンキョー(株)の体育館の利活用を企業に相談してみてもどうか。
- 2 駅の反対側の駐車場（空き地？）を整備して跨線橋をかけ、自由通路もしくは改札をそこへ付け替えれば、駅舎がスペースとして利用可能になるのではないか。
- 3 町の人口増加や活性化のためには（考えたことなど）
 - ①高校卒業まで授業料、給食費、医療費等の無償化
 - ②保育園近くの空き家などに若い人の移住がしやすい環境を作る。
 - ③若い夫婦には町内企業で働ける企業等の斡旋をし、生活基盤の確立を図る

【メンバー 2】

- ・さまざまな年齢でジャンルの意見聴取ができた。かなりの割合で下諏訪(故郷)への愛着が強い若者が多かった。(ふるさと難民比率低い)
- ・飲食店やコンビニなど不足は感じているが、あまり不便さは感じていないことがわかった。
- ・伝統行事(御柱、お舟祭り、花火)や地区行事への思い入れや重要性を感じた。
- ・若者、移住者と町民をつなげる人、場所が必要。
- ・コミュニティ場所づくりの必要性(本屋、カフェ、フリースペース)
- ・他団体(町おこし他)の調査と連携の必要性を感じた。
- ・駅前改革(駅舎、広場)を実施したい。
- ・更にアンケート・聞き取りの必要性を感じた(UMIcoffee、図書館、駅前)等々

【メンバー 3】

近年の若者をめぐる環境と彼らの将来は、これまでにない厳しい状況にある。インタビューの中からも私のころとはだいぶ違う様子が聞かれた。

そんな中で「若者の移住を増やす施策を」という意見をしばしば耳にする。生産性の高い人口を誘致したいという切実さはわかるが、この意見を聞いた時に私は違和感があった。しかし、インタビューを終えてその正体がわかったように思う。

それらの意見は企業や地域の人手不足を思っていることだろう。だが、私は仮に諏訪地域に厳しい未来が待っていようとも、やはり若い人たちが当人にとって最善の道を選んでもらいたいと思う。

若者と視線を合わせて話をすれば、「下諏訪町のこともなんか忘れたっていい。全力で夢を叶えて、良い人生を送ってほしい」「そしてもし人生で大きな失敗をしたのなら、いつでも下諏訪町に帰っておいで。あなたの生きる道を一緒に探そう」と、強く感じざるを得ない。私は彼らの帰る場所を一人の下諏訪町の大人として守りたいと強く思った。

厳しい現実に対しても希望を持って立ち向かおうとしている若い人を目の前にして、それ以外の何が言えるだろうか。ある高校生が「下諏訪駅前に勉強できるスペースが欲しい。そうした「教育投資」が必要なのではないか」と言った。勉強した結果、彼は諏訪地方に帰ってこないかもしれない。けれども、それでいいじゃないか。希望を抱いた彼を私の町から送り出すことができるなんて、なんと夢のある話ではないか。私たちの問題は私たちで解決しよう。私たちはそのた

めに「まちづくり」をしているのではないか。

【メンバー 4】

- ①今も昔も地方の子は都会志向で帰ってきたくないと思っていた。
大学生、高校生から「帰ってきたい」「出たくない」との意見が出て驚いた。成人式でも「帰ってきたい」が多かった（県外進学の場合は「分からない」が多かったが）。
- ②駅前への不満は年齢関係なくあると感じた。
 - ・学生は電車待ちする場所、勉強する場所、友だちとちょっとだべる場所がない
 - ・社会人は観光の電車、高速バス待ちの場所、お土産やコンビニへの不満
- ③地域に入っていくのはやはり難しいと感じた
 - ・情報はどこで得られるか、一気に色々厄介事も来そうで怖い。
段階的に地域に関われる方法があれば。コーディネーター大事。
- ④地元愛の醸成は大事だと感じた。
 - ・出身地はで城下町としての歴史を誰彼なく聞かされる。小4では副読本で勉強した。
体育館に「藩祖」と「中興の祖」の肖像画飾ってあった。
小学校入学セットに地域の歴史にちなんだグッズが配られたことがある。
 - ・諏訪大社の歴史、御柱祭と小宮祭の話、諏訪湖の話、製糸と精密機器の繁栄あたりを教えているのだろうか。
 - ・都会出て、人の多さや時間の流れの早さに疲れたとき、地元に戻るとほっとする。人がまばらで街の動き遅い(高齢者が多いから)。

4.第2期下諏訪みらい塾の成果と課題

下諏訪みらい塾の出発

第1期下諏訪みらい塾においては、下諏訪町における当面する課題をふまえつつ、やや長期的視点に立って、「私たちのまち下諏訪」をどうみるか、その前提として、私たちの現在の地域や生活をどうとらえていくかという課題意識を持っていました。この思いと共鳴する話題として、オープニングに『諏訪式。』を執筆された小倉美恵子さんの講演をお願いいたしました。小倉さんは川崎の多摩地区に生まれ育ち、急激に変容を遂げていく地域の姿をまえに、いかにして「地域」「ふるさと」をみずからの生活の拠り所として取り戻していくかを問うとき、諏訪地域で出会った数々の歴史とその伝統に調和した「まち」のありように着目されたのでした。「ふるさと難民」との小倉さんからの語りに、私たち自身がどんな下諏訪のみらいの「まち」を描くのか、そういう問いを私たち自身に向けて歩み始めることにいたしました。

あゆみの方向性をたしかめる

下諏訪みらい塾のあゆみは、①まちの未来を担う人材育成です。まちに生きる人々の知恵や工夫人を発掘して、それを育てていく、そういう拠点になること。だから、一人一人が自立してアイデアを持ちより、それを育んでいく、そうして将来、ここでの学びを活かして地域のリーダーになる人がでたらいいと取り組んでいきます。

②住民主体の場です。行政主導して行政課題に取り組まれていますが、そうした施策に直接結びついてすすめるというものではありません。あくまで、まちの人たちの思いをカタチにすることを心掛けたいと思っています。

③何でも言い合え、考え合える場です。行政でもやっていることも含めてあらゆる意見を発信できる場です。また、そうした趣旨が生かされるように塾ほんらいの姿であるワークショップを基本にし、参加型の学びの場にしています。こうして多彩な住民がお互いの意見を聞き、理解し合いどんな町にしていけばいいか考えられる場です。

第2期の二つのグループによる研究活動

塾生の関心に基づいて、以下の2つの研究グループを立ち上げ、それぞれの研究活動の成果が生み出されました。

グループのひとつが「まち探検」プロジェクト。まちの公共施設、景観、空き家、道路、たまり場・居場所探し、歩道と車道と自転車道等々、あらためて、まちをウォッチングしてみるグループです。丹念に歩き回ってみていくと、町になくなってしまったけど、欲しいものがある。自転車が安心して走れる道への探究へとすすみました。歩くうちに目のつけどころが多彩に展開したこのグループは個別研究の様相を持ち、今後につなげる課題がいくつも出されています。

もう一つは、「子ども・若者の意識調査」プロジェクトです。下諏訪町の子ども・若者の意識を探る。下諏訪町の小学生・中学生たちに「あなたのふるさとはどこか」と尋ねてみるとどんな反応があるだろうか、あるいは下諏訪町に通う高校生たちにとって下諏訪はどんなイメージに映っているのだろうかなどを探るインタビューとアンケートを織り交ぜ明らかにしていきました。こうした取り組みによって、「住み続けるまち・下諏訪」をどのようにして現実可能なものにしていくのか、その課題に迫る基本となる研究でした。

「みらい塾」の1年を振り返り、そのあゆみの方向性をたしかめる

みらい塾の塾生は、この1年、積極的にこの下諏訪のことを考え続けてきました。それは稼ぎにつながる「仕事」ではなく、よりよい下諏訪の地域社会をつくるには何が必要なのかを素朴に、かつ真剣に考え続けてきたあゆみでした。

今の社会は、そういう前向きな態度を願いながらも、つい、気後れしてしまうことがあるように思います。また、人と人が一緒に何かをする「社会」にたいして、なんとなく距離感を持ってしまっているようなところがあるのではないのでしょうか。おそらく、本来、私たちの生活と結びついている「行政」に対しても同じように距離感を抱いてしまっているのかもしれない。そういう方向性を転換していくこと、前向きにまちのことに向きあってみることを発信することが、まずはだいじな方向性と考えています。

第1回目下諏訪みらい塾において、その最初に小倉さんの報告を聞き、さらに、2期目今年度最後に「ものがたりをめぐる物語」上映会の企画を織り込み、あらためて、小倉さんといっしょに私たちがめあてにする社会のあり方をゆったりと考えあう時を持つことになりました。

まちの快適さ、環境の気持ちさ、さらにはやさしさ、感じのよさ、礼儀正しさといった価値を大事にしようという気概、そしてそれはおそらくかつてのこのまちに、この地域にはあったようなおぼろげながらも描く姿を私たちがめざす方向性としていただいてきたこの1年ではなかったかと、私は感じるようになっていきます。

たとえばです。今や車抜きには成り立たない社会になっているように思います。そうした車での移動があたりまえの時代に慣れた現在、もういちど「道」そのものを見直す試みを提案しています。そういう心意気のなかに、けっして明確な形を持っているとは言えないまでも、第2期下諏訪みらい塾の方向性が、研究のエネルギーになっているのではないかと、報告書を読みながら感じています。

私たちのまわりにある生活様式は、じつに便利（convenience）で、アップテンポです。そうした生活を「進歩」としてみなしてきました。利便性と快適性を探究して、結局のところはどうなんだろうか。そんな疑問を傍らに持ちながら、まちの探検に出向き、子ども・若者に接してきたこの1年ではなかったかと思えます。

利便性と快適性という「進歩」を追い続けてきた結果、この下諏訪への自己肯定感、あるいは自尊感情を縮めてしまったとすれば、まちのこれからの方向性を再点検していきたいという思いです。

私たちはいまのまの自分（下諏訪）を認め受け入れ、自分（下諏訪）を尊重し、自ら（下諏訪）の存在を肯定する感覚をより戻す方向へと舵を取る活動を始めたいと願っています。

多くの町民が、この下諏訪はかけがえのない地域だと思える心の状態へと広がっていくために、この下諏訪みらい塾のこれからの活動に期待していきたいと思っています。

（上田 幸夫）

第2期令和4年度「下諏訪みらい塾」での出会いと学びに感謝

皆さん、一年間本当にお疲れさまでした。「下諏訪」という場集ったお一人お一人が、これまでの人生の歩みのうえに、グループ研究を通じて、ふるさとを創造していく過程で、真剣に「下諏訪町」のことを想う気持ちが込められた報告書がまとめられたことに尊さを感じます。この成果は、必ずこれからの下諏訪町の未来につながっていくことと思います。

職員一同も、住民主体の場をつくるために何ができるのか模索しながら、一緒になって研究をし、共に学ぶことができた有意義な一年間であったと感じております。

また、ここまで導いてくださったアドバイザーの上田幸夫先生に心から感謝を申し上げますとともに、今後におきましてもご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

(担当職員一同)

第2期令和4年度下諏訪みらい塾メンバー

「まち探検」グループ

石垣麻衣子、井上喜久美、今井孝治、曾根原義治、
滝口昂太、豊島健之、山田孝實

「子ども・若者の意識調査」グループ

片桐悠貴、栗山究、島田博子、鈴木伸一、水澤信雄

アドバイザー

上田幸夫先生（日本体育大学名誉教授）

職員

総務課企画係 大澤崇、丸山貴史、安藤仁志
下諏訪町公民館 岩波洋、竹淵真由